

令和元・2年度 長崎県教育委員会・佐世保市教育委員会指定

「21世紀型学力向上推進緊急プロジェクト事業」研究発表会

研究紀要

【研究主題】

新しい時代の中で学び続ける子どもの姿を求めて
～「読解力」(Reading Skill)の向上に向けた指導の工夫を通して～



令和2年11月13日(金)

佐世保市立大野小学校

は じ め に

長崎県教育委員会・佐世保市教育委員会より「21世紀型学力向上推進緊急プロジェクト事業」の研究委託を受け、令和元年度より2年間の研究がスタートしました。本校はもちろん、長崎県の長年の課題である読解力、「そもそも問題が正しく読めていないのではないか、教科書や教師の話が理解できていないのではないか。」という仮説のもと、読解力の質を高める授業への転換を行うことで、学力の向上を目指す研究です。読解力が低いというおおまかな、漠然とした捉え方から、RST（リーディングスキルテスト）を活用することで、読解力を細かに分類し、どの分野が落ちているのか、どこに課題が見られるのか、詳細な分析を行いました。日々の授業で、RS（リーディングスキル）の視点を明確にし、基礎的な読み解く力を高める工夫を行うことで、学力の向上を目指しました。

「RST（リーディングスキルテスト）とは？」という全くゼロからのスタートでしたが、職員自身がRST（リーディングスキルテスト）を受検することで、読む力に必要な能力・読解のプロセスを理解し、先進校に学び、授業実践を繰り返すことで、RS（リーディングスキル）についての理解を深め、全職員の目指すべき道筋が見えてきました。何より、これまで、わかっているもの・読み取れているものと思っていたことが、もしかするとわかっていないのではないか、という目で見えるようになったこと、教師の授業を見る視点が変わったことは大きな成果です。RS（リーディングスキル）の視点を明確にした研究授業、活発な意見交換が交わされた授業研究、明らかに職員の意識が変わり、「みんなで考え、みんなで実践し、みんなで創り上げた」という実感を得られる研究となりました。

テスト問題を読みながら、大事な文に線を引き、挿絵と文を線でつなぎ、解決に向かう児童の姿。分からない言葉があると、すぐに辞書を手に取り調べる児童の姿、確かな読みに向けた教師側の手立てが、児童自身の学習スキルとして身についてきていることを嬉しく思います。

本日、これまでの研究の成果・課題を公開し、参観者の皆様方から忌憚ない御意見をうかがう機会を得たことで、今後の研修により弾みがつくものと期待しています。読解力の向上を、確かな学力の向上につなげるべく、今後も研究に邁進してまいります。

最後になりましたが、本校の研究に対し多くの学びの場を提供していただき、細やかに御指導・御助言をいただきました長崎県教育委員会・佐世保市教育委員会の先生方をはじめ、関係の皆様にも深く感謝申し上げます、あいさついたします。

令和2年11月

佐世保市立大野小学校

校長 前 田 善 公

【目 次】

○ はじめに

I 研究の概要

1 研究の全体構想	1
2 研究主題，研究仮説について	2
3 研究年次計画	3
4 研究の内容，方法，検証の方法，研究組織について	3
5 研究の経過及び予定	5

II 研究の実際

1 専門部の取組	8
(1) 理論研究部	8
(2) 基礎学力研究部	12
(3) 環境整備部	14
2 授業実践	
・ 第2学年国語科 じゅんじょに気をつけて読もう 「たんぽぽのちえ」	16
・ 第5学年社会科 国土の気候と特色 「つゆと台風，季節風」	22
・ 第4学年国語科 筆者の考えをとらえて，自分の考えを発表しよう 「アップとルーズで伝える」	27
・ さくら学級（情緒学級） 自立活動「よく聞いて，みんなに伝えよう」	33
・ 「評価問題」の取組について	38

III 研究の成果と課題

1 成果	39
2 課題	42

○ 参考文献

○ おわりに

○ 研究同人

I 研究の概要



【元気いっぱい大野っ子】



【活発な授業研究】



1 研究の全体構想

【本校の教育目標】

学び合い, 高め合い, 心豊かでたくましく生きる子どもの育成

【研究主題】

新しい時代の中で学び続ける子どもの姿を求めて

～「読解力」(Reading Skill) の向上に向けた指導の工夫を通して～

【「読解力」(Reading Skill) とは?】(「長崎県読解力育成プラン」より)

- 文の基本構造(主語・述語・目的語など)を把握する力 (係り受け解析)
- 指示代名詞が指すものや, 省略された主語や目的語を把握する力(照応解決)
- 2つの文の意味が同一であるかどうかを正しく判定する力 (同義文判定)
- 既存の知識と新しく得られた知識から, 論理的に判断する力 (推論)
- 文章を図やグラフと比べ, 内容が一致しているかどうかを認識する力 (イメージ同定)
- 言葉の定義を読んで, それと合致する具体例を認識する力 (具体例同定)

【研究仮説】

読解力(RS)の視点を取り入れた授業改善に取り組むことで, 基礎的な読解力が高まり, 子どもたちの学力を向上させることができるであろう。

2 研究主題，研究仮説について

(1) 「新しい時代の中で学び続ける」ために必要な力とは

子どもたちがこれから生きていく未来の社会は，これまで以上の加速度で変化し，予測することが難しい状況であるといわれている。学校は，このような新しい時代の中で学んでいく子どもたちに，どのように時代が変化しようとも，求められる資質・能力を身に付けさせる必要がある。そのためには，全ての教科等に関わる基礎的な能力である，「文章や情報を正確に理解し論理的思考を行うための読解力」，「他者と協働して思考・判断・表現を深める対話力」を育成することが必要である。特に，読解力は，すべての教科等に関わる基礎的・汎用的な能力であり，学力を支えるための必要不可欠な力であると考え，読解力の向上に向けた指導の工夫について研究を進めることとした。

(2) 昨年度の研究から

本校は，昨年度からR S T (Reading Skill Test) の結果を受けた授業改善に取り組んできた。昨年度の研究では，研究主題を「新しい時代の中で学び続ける子どもの姿を求めて」，副主題を「読む力 (Reading Skill 以下，R S とする。) の分析と，その向上に向けた指導の工夫を通して」と設定し，R S T (Reading Skill Test) を受検して本校児童の読解力を多面的に測り，その分析結果をもとに，学習指導や授業研究を進めてきた。その結果，読解力 (R S) の6つの視点を意識した指導を行うようになり，職員の意識が向上したことは大きな成果だった。児童においても，わからない言葉を国語辞典で調べたり文章題を図に表したりするなど，文を丁寧に読むとする意識が少しずつ高まってきた。

(3) 読解力の向上に向けた指導の工夫

そこで，本年度は昨年度の研究を引き続き行い，副主題を『読解力』(R S) の向上に向けた指導の工夫を通して」として，R S Tを再度受検し，昨年度の結果と照らし合わせながら児童の読解力を多面的に分析し，その結果をもとにさらなる指導の工夫，授業改善に取り組んでいきたいと考えた。

このように，読解力 (R S) の視点を取り入れた授業改善や指導の工夫に取り組むことで，子供たちの基礎的な読解力が高まり，それが学力を向上させることにつながると考え，研究主題，研究仮説を設定した。

3 研究年次計画

本校では、次の計画に基づき、2年間の研究を進めてきた。

年次（年度）	年 次 計 画
1 年次 （R 元年度）	研究主題に基づく研究実践の構築 ・ R S T の実施と結果分析 ・ 学力調査等及び「学びのアンケート」による児童の実態把握 ・ R S T 及び R S の問題分野等についての理解を深める研修の実施 ・ R S T の結果を受けた授業改善，R S の視点を取り入れた授業研究
2 年次 （R 2 年度）	研究主題に基づく研究実践の推進及び検証 ・ 児童の学力，読解力の測定・分析（R S T，学力調査等，M I M） ・ 「学びのアンケート」による児童の実態及び変容の把握 ・ R S の視点を取り入れた授業改善，授業研究の実践及び検証 ・ 読むことへの興味・関心を高めるための環境整備の充実 ・ 研究発表

4 研究の内容，方法，検証の方法，研究組織について

（1）研究の内容

① 児童の学力，読解力の測定・診断

- ・ R S T（Reading Skill Test）の実施と結果分析（6 年），および昨年度の R S T の結果を踏まえた児童の読解力の実態把握
- ・ 学力調査，及び校内での「学びのアンケート」の実施と結果分析，児童の実態把握
- ・ M I M (Multilayer Instruction Model 多層指導モデル) による「読み」のつまずきに関するアセスメント（評価）の実施と児童の「読み」の実態把握

② 授業改善の取組

- ・ R S の視点を取り入れた指導の工夫
- ・ 教科書を活用した授業づくり
- ・ ノートやワークシートを活用した授業実践

③ 読解力の向上を支える取組

- ・ 「まなびタイム」における視写の取組
- ・ 読むことへの興味・関心を高めるための校内掲示の工夫（よむよむチャレンジ）
- ・ 国語辞典の活用（3 年生以上）

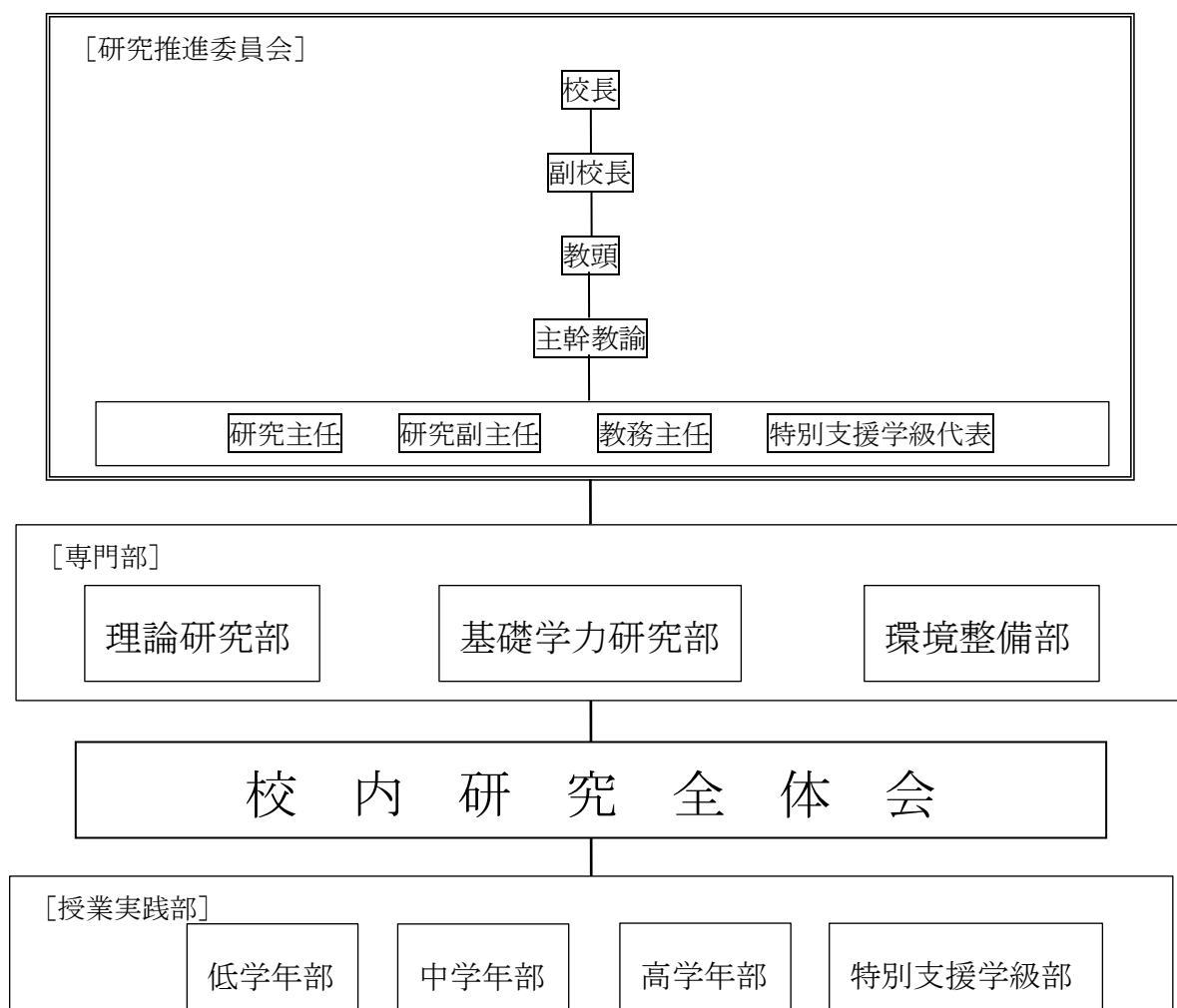
(2) 研究の方法

- ① R S T (Reading Skill Test) を実施し、その結果を分析する。(6年生)
- ② M I M (Multilayer Instruction Model) を実施し、児童の「読み」のつまずきに対するアセスメントを行う。(2～6年)
- ③ R S T, M I M 及び学力調査の結果分析に基づき、学習指導や授業研究、授業実践を行う。
- ④ 諸活動の充実を系統的に行うため、各学年・専科縦割りによる専門部会を作る。
- ⑤ 研究授業は授業実践部(低中高学年、特別支援学級部)で進める。
- ⑥ 研究発表を実施し、昨年度及び今年度の研究の効果を発表する。

(3) 検証の方法

- ① 単元末のテスト、評価問題、ワークシート等によって、ねらいを達成できたかを検証する。
- ② 「学びのアンケート」を実施し、児童の学びに対する意識の変容を考察する。
- ③ 月1回M I Mを実施し、児童の「読み」のつまずきに関するアセスメントを行う。
- ④ 研究の成果と課題について職員にアンケートを実施する。

(4) 研究組織



5 研究の経過及び予定

【令和元年度】

日 程	回	組織	研 修 内 容	備 考
4 月 4 日 (木)	①	推進	研究の概要説明 (県教委)	研究推進委員
5 月 1 3 日 (月) ~ 3 1 日 (金)	②		R S T 実施 (教職員)	事前に職員会議で説明
5 月 2 3 日 (木)	③	全体	全体計画提案	研修部
5 月 3 0 日 (木)	④	現職	心肺蘇生法研修	担当者
6 月 6 日 (木)	⑤	全体	「21世紀型学力向上推進緊急プロジェクト事業」の委託に係る説明会	県教委
6 月 2 0 日 (木)	⑥	全体	全体計画確認・専門部員決定	研修部
7 月 1 1 日 (木)	⑦	専門	専門部会計画立案 (部会 1)	
7 月 2 2 日 (月)	⑧	専門	部会 2	
8 月 9 日 (金)	⑨	専門	部会 3	
8 月 2 1 日 (水)	⑩	全体	伝達講習会等	担当者
8 月 3 0 日 (金)	⑪	全体	専門部による提案・報告等	
9 月 5 日 (木)	⑫	専門	部会 4	
9 月 1 9 日 (木)	⑬	専門	部会 5	
9 月 2 6 日 (木)	⑭	専門	部会 6	
1 0 月 3 日 (木)	⑮	専門	部会 7	
1 0 月 1 0 日 (木)	⑯	授業	研究授業準備 (指導案作成等) 1	
1 0 月 1 7 日 (木)	⑰	授業	指導案検討 1	
1 0 月 3 0 日 (水)	⑱	授業	全体授業・授業研究会 1 5 年 3 組 国語「天気を予想する」	
1 1 月 2 1 日 (木)	⑲	授業	指導案検討 2	
1 2 月 3 日 (火)	⑳	授業	全体授業・授業研究会 2 1 年 3 組 国語「じどう車くらべ」	中間指導
1 2 月 1 9 日 (木)	㉑	授業	研究授業準備 (指導案作成等) 3	
1 月 1 6 日 (木)	㉒	授業	指導案検討 3	
1 月 2 3 日 (木)	㉓	授業	全体授業・授業研究会 3 3 年 1 組 算数「べつべつに、いっしょに」	
1 月 3 0 日 (木)	㉔	授業	授業部まとめ	
2 月 6 日 (木)	㉕	専門	専門部まとめ (部会 8)	
2 月 1 3 日 (木)	㉖	専・授	研究紀要原稿作成	
2 月 2 7 日 (木)	㉗	専・授	研究紀要原稿作成	
3 月 1 9 日 (木)	㉘	全体	研究紀要製本	

【令和2年度】

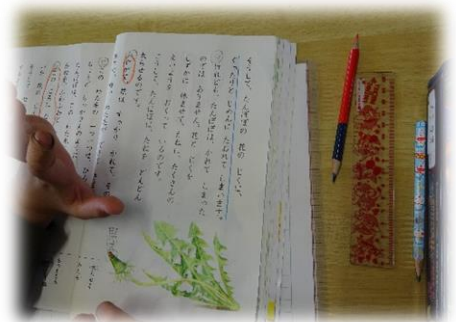
日 程	回	組織	研 修 内 容	備 考
4 月 3 日 (金)			全体計画提案	職員会議
4 月 9 日 (木)	①	全体	全体計画確認・専門部員決定	
4 月 1 6 日 (木)	②	専門	部会 1 (専門部活動計画立案)	
5 月 1 日 (金)	③	専門 全体	部会 2 RST について概要説明	
5 月 2 1 日 (木)	④	全体	指導案検討 1	
5 月 2 8 日 (木)	⑤	授業	全体授業 1 (ビデオ撮影) 2 年 1 組 国語「たんぽぽの ちえ」	部員の参加
6 月 1 日 (月)	⑥		ビデオ視聴 (16:00～)	
6 月 4 日 (木)	⑦	全体	全体授業研究会 1	
6 月 1 1 日 (木)	⑧	現職	心肺蘇生法研修	担当者
6 月 1 9 日 (金)	⑨	授業	部会授業 1 5 年 4 組 社会「つゆと台風, 季 節風」	
6 月 2 4 日 (水)	⑩	全体	指導案検討 2	
7 月 2 日 (木) 3 校時	⑪	授業	全体授業 2 (ビデオ撮影) 4 年 3 組 国語「アップとルー ズで伝える」	部員の参加
7 月 6 日 (月)	⑫		ビデオ視聴 (16:00～)	
7 月 9 日 (木)	⑬	全体	全体授業研究会 2	中間指導
7 月 1 4 日 (火) 2 校時	⑭	授業	部会授業 2 さくら学級 自立活動「よく聞 いて, みんなに伝えよう」	
7 月 2 0 日 (月)	⑮	現職	食物アレルギー研修	担当者
7 月 2 9 日 (水)	⑯	専門	部会 4 (紀要原稿の内容につい ての話し合い)	
8 月 2 5 日 (火)	⑰	授業	公開授業指導案作成・検討	
9 月 1 7 日 (木)	⑱	授業	公開授業指導案作成・検討	
9 月 2 4 日 (木)	⑲	全体	公開授業指導案検討 1 1 年 国語「じどう車くらべ」	
1 0 月 1 日 (木)	⑳	全体	公開授業指導案検討 2 3 年 社会「火事からくらしを 守る」	
1 0 月 8 日 (木)	㉑	全体	公開授業指導案検討 3 6 年 算数「比例と反比例」	
1 0 月 1 5 日 (木)	㉒	全体	研究発表準備	
1 0 月 2 9 日 (木)	㉓	全体	研究発表会準備	
1 1 月 5 日 (木)	㉔	全体	研究発表会準備	
1 1 月 1 3 日 (金)	㉕	全体	研究発表会	本発表

1 1 月 1 9 日 (木)	㉔	授・専	研究発表会振返り	
1 2 月 1 0 日 (木)	㉕	全体	研究発表会振返り	
1 2 月 1 7 日 (木)	㉖	専門	研究のまとめ (専門部)	
1 月 2 8 日 (木)	㉗	専・授	研究のまとめ	
3 月 1 7 日 (水)	㉘	全体	年間のまとめ	

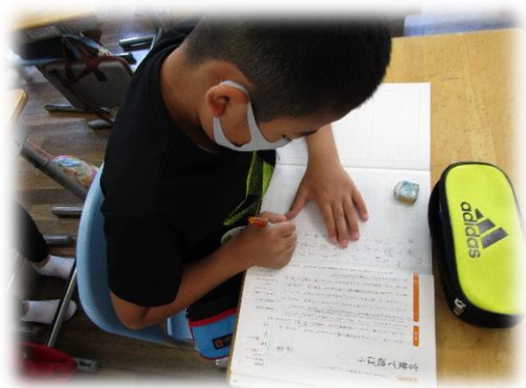
II 研究の実際



【RSの視点を取り入れた授業研究】



【よむよむチャレンジ】



【まなびタイムにおける視写の取組】

1 専門部の取組

(1) 理論研究部

① 基本的な考え方

児童の読解力は日々の授業を通して培われていく。そのため、本校では読解力を向上させるために「読解力 (RS)」の視点を取り入れた授業改善に取り組んできた。理論研究部では、児童の基礎的な読解力を高めて、学力を向上させるための授業の在り方について考え、それらを支えるための取組に関する研究を進めてきた。

② 具体的な取組

(ア) 児童の学力、読解力の測定・診断

- 令和元年度、令和2年度の2年間でリーディングスキルを3回受検した。
 - ・ 令和元年度6年生(無償版) 令和元年6月
 - ・ 令和元年度5年生(有償版) 令和元年11月
 - ・ 令和2年度6年生(有償版) 令和2年7月
- 今年度、5年生が長崎県学力調査、6年生が全国学力・学習状況調査を受検した。
 - ・ 長崎県学力調査 令和2年7月
 - ・ 全国学力・学習状況調査 令和2年7月

(イ) 「学びのアンケート」の実施

読解力を向上させるためには、児童が「読む」ときの実態を把握する必要があると考え、「学びのアンケート」を作成し、これまでに3回実施した。下記のアンケート内容には、「読む」ときに重要なポイントが含まれており、これらの内容を含んだアンケートを実施することで、児童と教師が日々の授業で意識すべきポイントが明確になった。結果は、以下のとおりである。

〈アンケート項目〉 1～2年生用

国語1 文を読むときに、大切な言葉に○をつけたり線を引いたりしていますか？

国語2 わからない言葉があるときには、誰かに意味を聞いていますか？

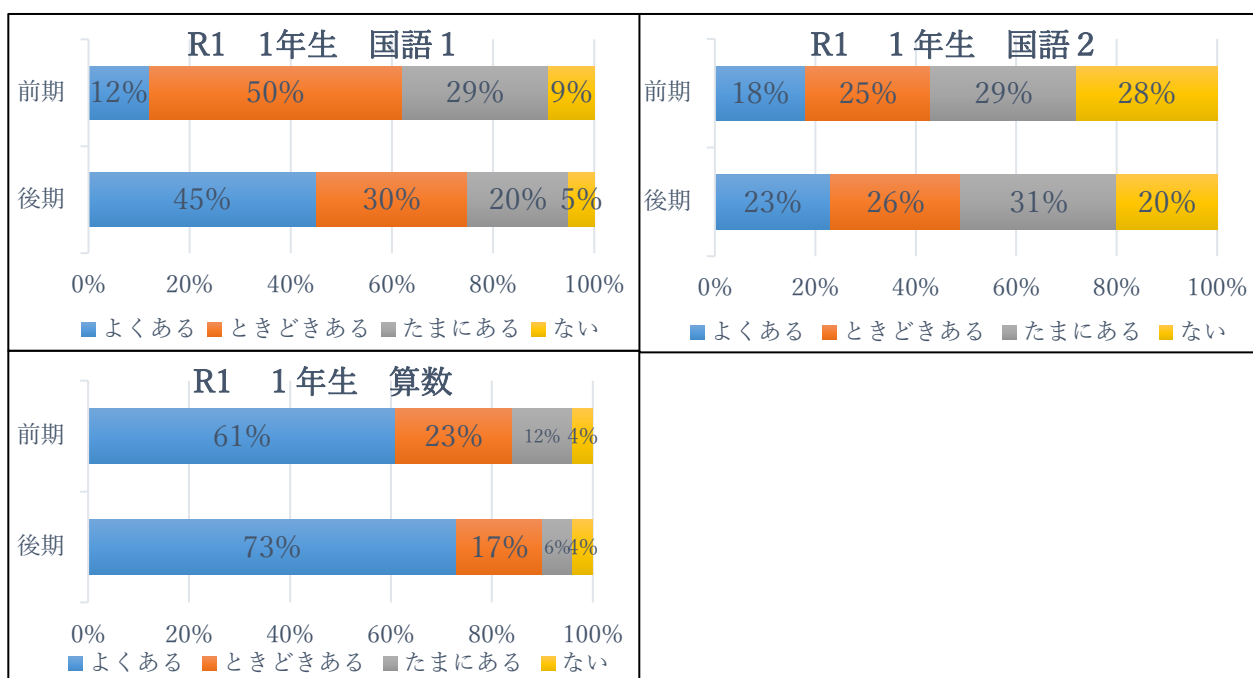
算数1 文章問題で迷ったときに、大事な言葉や数字に○をつけたり、線を引いたりしていますか？

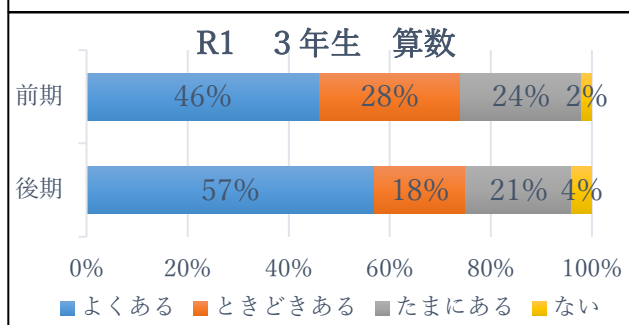
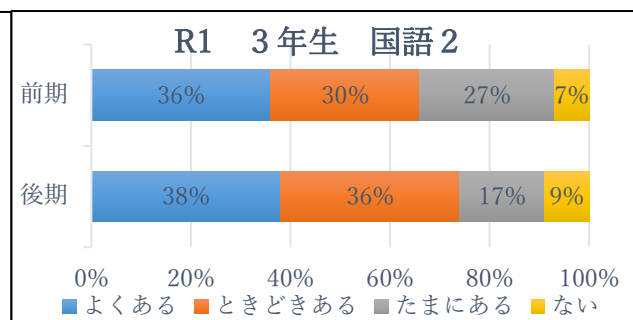
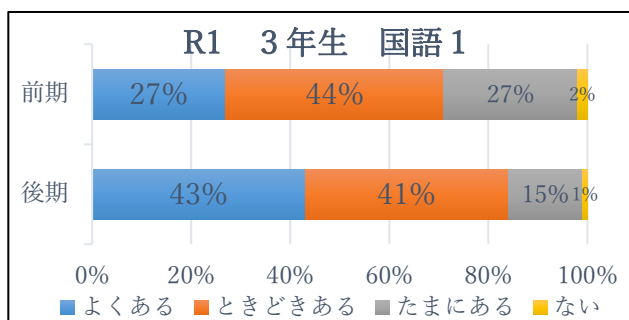
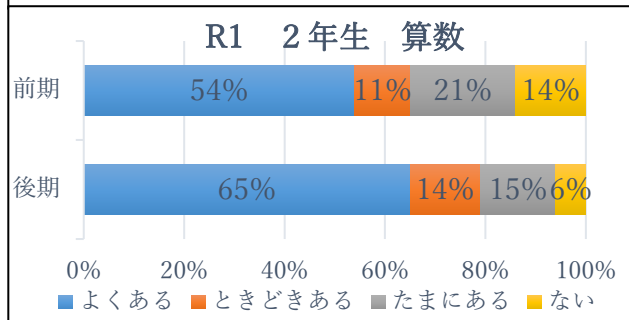
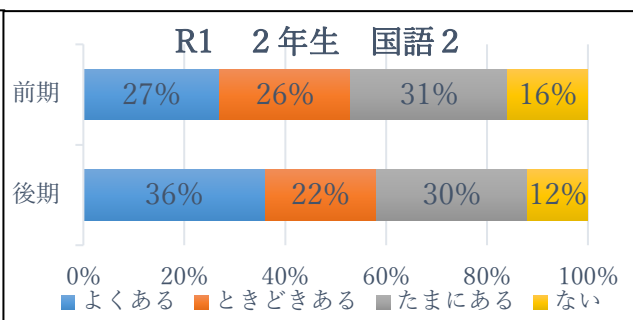
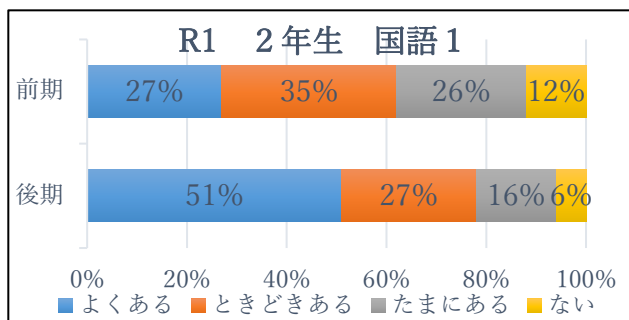
〈アンケート項目〉 3～6年生用

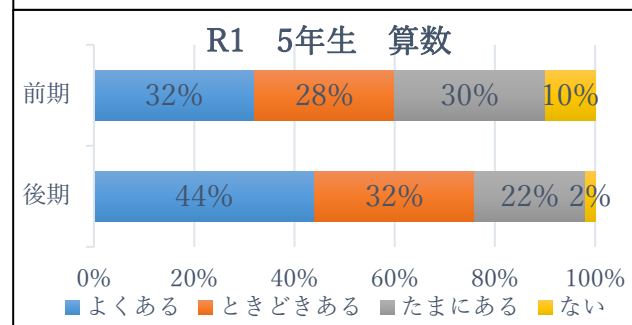
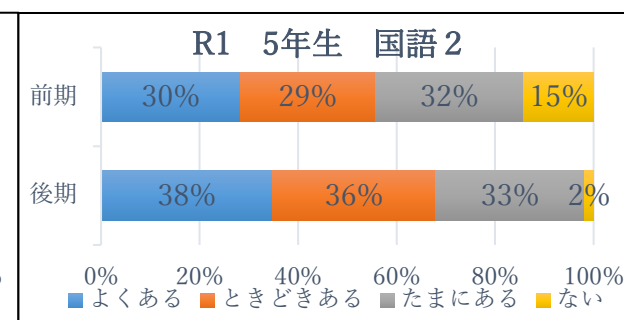
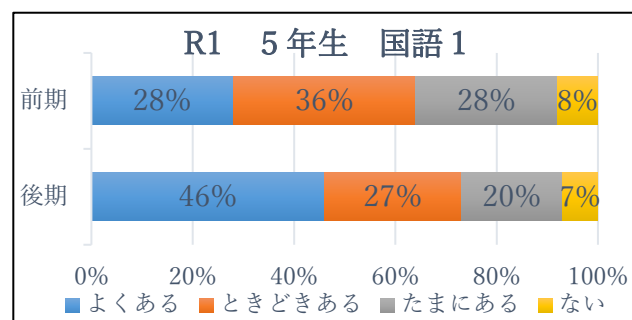
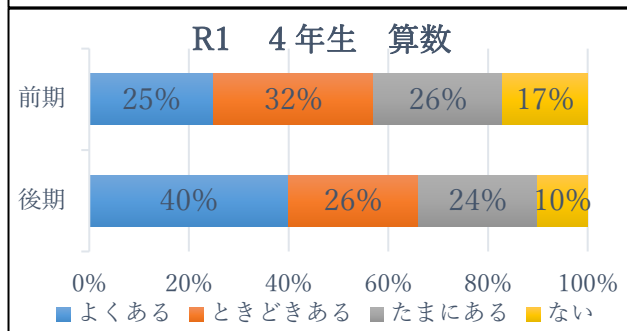
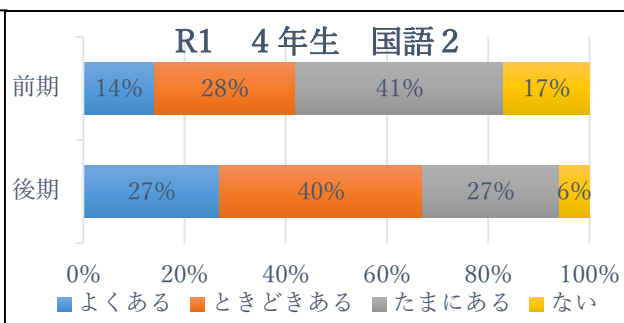
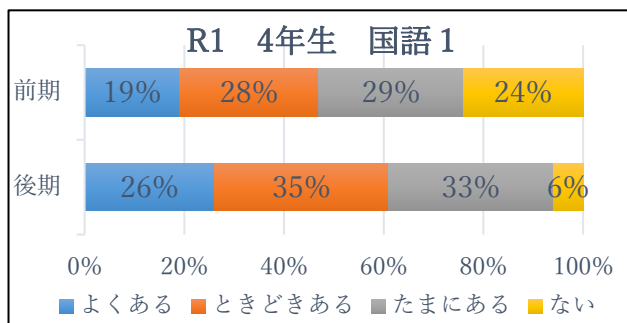
国語1 文章を読むときに、大切な言葉に○をつけたり線を引いたりしていますか？

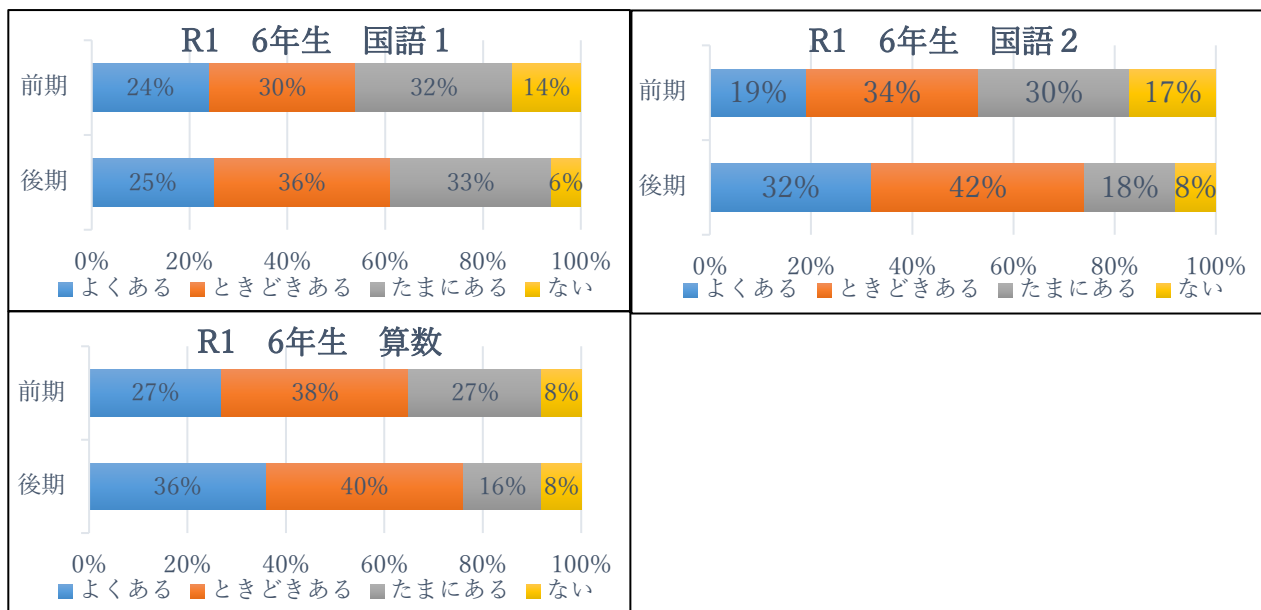
国語2 わからない言葉があるときには、国語辞典を引いていますか？

算数1 文章問題で迷ったときに、表や図(線分図・テープ図)などをヒントにして問題を解いていますか？









(ウ) MIM-PM(Multilayer Instruction Model-Progress Monitoring)の実施

MIM-PMとは『学習が進んでいくにつれ、つまずきが顕在化する児童を、つまずく前の段階で把握し、指導につなげていくためのアセスメント。』のこと。

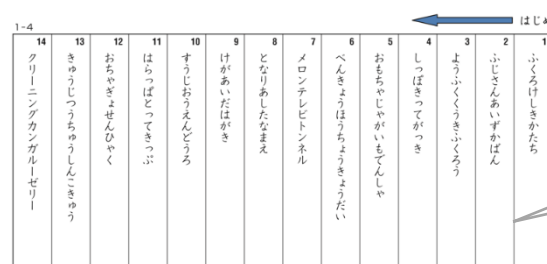
月に一度実施することで（朝の学びタイムの活用）、児童の様子を担当が把握できるようにする。

〈問題例テスト1〉



テスト1「絵に合うことばさがし」
正しい表記の語を素速く認識する力

〈問題例テスト2〉



テスト2「3つのことばさがし」
(逐字ではなく)語を視覚的なまとまりとして素速く認識する力

※ 1～6年生の全学級（特別支援学級を含む）で実施（各テスト1分ずつ）

MIMテストを実施することで、以下のようなことを教師が把握することができる。

- ・正しく読めていない児童
- ・読めていない言葉の傾向（濁音や長音など）
- ・児童の読むことに関するつまずきの箇所
- ・一見すると読めているように見えるが、実は問題を抱えている児童

(2) 基礎学力研究部

本校では、読解力の向上を支える取組として、視写や国語辞典の活用等に取り組んでいる。

① 視写の取組について

(ア) 児童の実態と視写を設定した理由

○学力調査において、記述式問題の無解答割合が高い。

→書くことに対する抵抗を減らすため。

○自分の考えを明確にして発言することを苦手とする児童が多い。

→思考ツールとしての書く活動を取り入れるにあたり、書くことに対する抵抗を減らすため。

○自分なりの工夫を取り入れたノート作りが不十分である。

→情報を整理して記録する、自分の考えをメモする、文字を書くスピードを上げる等の技能を向上させるため。

(イ) 視写の効果

- ・集中力をつける。
 - ・字が上手になる。
 - ・文章表現の技法を覚える。
 - ・表記のルールを覚える。
 - ・暗誦や記憶に役立つ。
- (文部科学省HPより)

※さらに副次的な効果として、書くスピードが速くなる、語彙が増える、正確に書くための注意力が高まることなどが期待できる。

(ウ) 実践方法

○週1回(火曜日)、「まなびタイム」(朝の帯タイム)の時間に実施する。

※毎月最終週はMIMを行う。

○教材は、当該学年の教科書や、それぞれの学年で選定したものを使用する。

○視写の時間は、全学年3分間とする。

○字数の目安は次の通りとする。

学年	1分間	3分間
1年	10字	30字
2年	15字	45字
3年	20字	60字
4年	25字	75字
5年	30字	90字
6年	35字	105字

(エ) 実施当初と実施後の比較(3分間の文字数)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
6月	23字	21字	34字	76字	103字	85字
9月	44字	49字	76字	92字	123字	106字

② 国語辞典の活用について

- (ア) 3年生以上の児童は、全教科において国語辞典を常備し、分からない言葉はすぐに国語辞典を使って調べるようにする。

③ その他

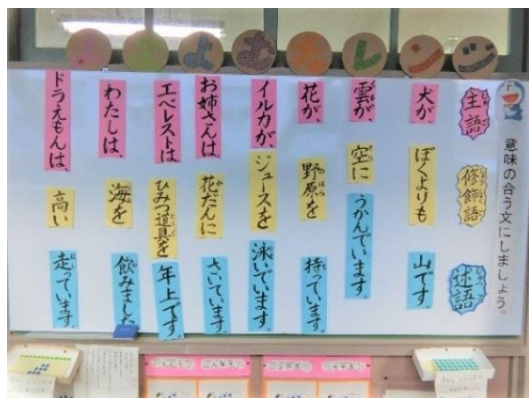
(ア) 授業における共通実践事項

- 毎時間の授業において、全学年共通の「めあて」と「まとめ」のカードを使用する。
- 教科書等の文章の大事なところに線を引く。
- 絵や図とそれに関連する文を線でつなぐ。
- 自分の考えやまとめなどをノートに書く。
- 根拠を明確にして問題に答えたり発言したりする。

(3) 環境整備部

① よむよむチャレンジについて

「よむよむチャレンジ」はRSの6つの問題分野(①係り受け解析 ②照応解決 ③同義文判定 ④推論 ⑤イメージ同定 ⑥具体例同定)に関する内容をクイズ形式にして掲示する取組である(写真参照)。全児童が目につきやすい職員室前廊下にコーナーを設置した。短時間でチャレンジできるような問題を月ごとに作成している。チャレンジしたらボードの下の学年別の表にシールを貼り、どの学年が何人取り組んでいるか目に見えるようにした。さらに、給食時間の放送を活用し、月初めに問題の内容を紹介、月半ばと月末の2回学年ごとの人数を発表することで、児童の意欲を喚起した。これにより、低学年から高学年まで関心をもって取り組む姿が見られるようになった(写真参照)。



令和元年11月 「①係り受け解析」

- 主語(ピンク), 修飾語(黄色), 述語(水色)の文カードを意味が合うように並べ替える。
- ※ 1年目は手探りの状態であり、文・言葉が中心の問題であった。



令和2年5月掲示 「⑤イメージ同定」

- 文章を読んでその内容に合う絵を選んで貼る。
- ※ 2年目になると文と絵を組み合わせる問題も取り入れた。



令和2年6月掲示 「②照応解決」

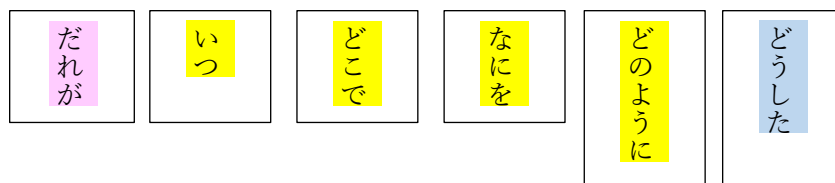
- 指示語が指すものを3つの中から選ぶ。
- ※ 文と絵を掲示し、「この」は話し手に近い, 「その」は相手に近い, などが意識できるような問題場面を設定した。

令和2年7月掲示 「①係り受け解析」

- ※ 読点を打つ場所を変えることで、意味が変わることに目を向けさせた。㊦㊦表にシールを貼る6年生㊦



② 主語・述語カードについて



上のようなカードのセットを作り、各学級だけでなく特別教室、保健室にも常備した。授業での指導をはじめ学校生活の様々な場面で、係り受け解析の指導の際以下のように活用している。児童は、主語・述語の意味や役割を理解し、意識して使えるようになってきている。

朝の会のスピーチ



日記、作文指導



国語の読み取り



保健室での対応



③ RSカードについて

まず教師が、6つの問題分野（①係り受け解析 ②照応解決 ③同義文判定 ④推論 ⑤イメージ同定 ⑥具体例同定）の内容を理解し、授業に生かせるようにするためカード（下写真参照）を作成した。必要に応じて、主語や述語①、指示語が指し示すところ②など、指導を繰り返すことで、児童が文章を読み解く視点を身に付け、読解力が向上するように取り組んでいる。

①だれが なに 何を どうした ?	③二つはおなじ 意味？ ぶん ぶん (文と文)	⑤つまり・ ということは？
②こそあど	④二つはおなじ 意味？ ぶん ぶん (文と図)	⑥当てはまるものは どれ？

(低学年用)

① 主語・述語・修飾語 に線を引こう ?	③むずかしい言葉を やさしい言葉に 置きかえよう	⑤事例と意見の 関係をおさえて 自分の言葉で まとめよう
②指示語	④文章と図を 対応させよう	⑥定義に合わせて 具体例を説明しよう

(高学年用)

2 授業実践

◆ 新しい時代の中で学び続ける子どもの姿を求めて

第2学年国語科学習指導案

令和2年5月28日（木）第2校時

児童数 〇〇名

指導者 教諭 〇〇 〇〇

場 所 2年〇組教室

- 1 単元名 じゅんじょに気をつけて読もう
「たんぽぽの ちえ」（全10時間）

2 単元について

○児童観

4月に実施した「学びのアンケート」によると、「文を読むときに大切な言葉に○をつけたり線を引いたりしているか。」という質問に対しての本学級の回答は、「よくある」…2名、「ときどきある」…12名、「たまにある」…11名、「ない」…1名であった。（2名欠席）また、「わからない言葉があるときに誰かに聞いているか。」という質問に対しては、「よくある」…16名、「ときどきある」…7名、「たまにある」…2名、「ない」…1名という回答であった。このことから、本学級の児童は、新しい言葉を知りたい、文を読んで理解したい、という意欲はあるものの、こういったことに気を付けて読んでいけばよいのかという読み方や学び方についてはまだ十分ではないということがわかる。

1年生の「じどう車くらべ」では、「事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜く。」ことを、「どうぶつの赤ちゃん」では、「時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉を書き抜く。」ことを学習している。説明文を読むときには、大事な言葉に着目しながら読むことを学んできてはいるが、アンケートの結果からもわかるように、言葉に着目しながら丁寧に読むことはまだ十分とはいえない。

○単元観

本単元では、時間の順序を表す言葉や理由づけを表す言葉に着目して内容を正しく読む力をつけることをねらいとしている。

「たんぽぽの ちえ」は、たんぽぽの生態の秘密を一つ一つ丁寧に解き明かしている。まず、「二、三日たつ」「やがて」「このころになると」などといった時間を表す言葉を使って、時間を追って変わっていくたんぽぽの様子を表す。それぞれの段落では、「一のです。」「一からです。」という表現で、その様子の理由づけをしている。さらに、最後の段落で「このように、一」という形で、文章全体をまとめている。

時間やその推移を示す言葉が段落の初めに明確に示されていることや、それぞれの現象の提示の後にその理由が位置づけられていることを意識して読むことは、児童が今後説明文を読むときに有効に生きてくると考えられる。

○指導観

本単元の指導にあたっては、児童が、時間やその推移を示す言葉に着目して説明文を正確に読むために、順序をバラバラにした文章を正しい順に並べ替える活動に取り組ませる。その際、時を表す言葉を根拠にして考えさせることで、時間的な順序を見出させたい。

段落ごとに文章の内容を読み取る活動では、挿絵と時を表す言葉を結び付けたり「何が」「どうした（どうなる）」のかを読み取らせたりすることで、たんぽぽが変わっていく順序に気を付けて内容を正しく捉えさせたい。また、文末表現に着目して読ませることで、様子（知恵）を表す文章と理由を表す文章を区別させたい。

○読解力の視点を踏まえた指導のポイント

「時間的な順序などを考えながら、内容を正しく捉えることができる力を育成するための指導」 【係り受け解析】～だれが何をどうした～

- ・バラバラになった文章を並び替えることで、時を表す言葉に着目させる。
- ・挿絵と文章を照応しながら読み取らせることで、内容を正しく理解できるようにする。
- ・「何が」「どうした（どうなる）」のかを読み取らせることで、内容を正しく理解できるようにする。
- ・「一です。」と「一のです。」の違いに着目させることで、様子を表す文章と理由を表す文章を区別できるようにする。

3 単元の目標

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)ア
- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。
〔知識及び技能〕(1)カ
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元で取り上げる言語活動

事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文の中における主語と述語との関係に気付いている。 (1)カ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	・進んで、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを話そうとしている。

6 指導計画（全10時間）

次時	主な学習活動	RS との関連	
		視点	指導上の留意点
とらえよう	1 ○ 題名やリード文から文章の内容を想像したり、たんぽぽについて知っていることを話し合ったりする。 2 ○ 「じゅんじょに気をつけて読もう」という学習目標を設定し、単元の見通しをもつ。 3 ○ 教材文を読み、初発の感想を交流する。 ○ 挿絵と時を表す言葉を結び付けながら、たんぽぽが変わっていく順序	イメージ同定	・たんぽぽのクイズを出したり、写真を提示したりして興味をもたせる。 ・学習計画を提示し、単元の見通しをもたせる。 ・「不思議だと思ったこと」「おもしろいと思ったこと」を発表し合う、という目的をもたせてから音読させる。 ・時を表す言葉に着目させ、たんぽぽが変化する様子を捉えさせる。

		に気を付けて読む。		文中のわからない言葉の意味を確認する。 (例:「ちえ」…考えたり思ったりする頭のはたらき (小学館「例解学習国語辞典」))
ふかめよう	4 本時 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	○ たんぼぼの知恵とそのわけを整理する。 ① 種を太らせる知恵 (P43～P44L8) ② 種を飛ばす知恵 (P44L9～P45L4) ③ 種を遠くに飛ばす知恵 (P45L5～P46L4) ④ 天候によって綿毛の開き方を変える知恵 (P46L5～P47L5) ○ 文章全体を読み、たんぼぼの知恵の数や、それらを働かせる理由を捉える。	係り受け解析 照応解決 イメージ同定	- 挿絵と文章を照応させることで、たんぼぼが変化する様子を正しく読み取ることができるようにする。 「何が」「どうした」のかを読むことで、文章の構造を正しく理解して読むことができるようにする。 - 文末表現に着目させ、たんぼぼの知恵とその理由を分けさせる。 「このように」に着目させ、文章全体をまとめる役割をしていることに気付かせる。
まとめよう	9	○ たんぼぼの知恵の中で賢いと思うところをノートに書き抜き、思ったことを書き添える。	係り受け解析	「書き抜く」と「思ったことを書く」ことの違いを確認し、自分の考えをまとめることができるようにする。
ひろげよう	10	○ 書いた文を読み合う。 ○ 学習を振り返り、説明的な文章を読むときに気を付けることをまとめる。	同義文判定 推論	- 自分の考えとの共通点を伝えるよう促す。 - 順序に沿って説明することや理由を表す言葉に着目して読むことの重要性に気付かせ、説明的な文章の読み方を整理する。

7 本時の指導 (4 / 10)

(1) 本時の目標

「何が」「どうした (どうなる)」のかを確かめたり文末表現に着目したりして読み、花が咲いて二、三日たったころのたんぼぼの知恵とその理由を捉えることができる。

(2) 授業の視点

- ① 「何が」「どうした (どうなる)」のかを確かめながら読むことで、内容を正しく理解して読み取ることができる。

【係り受け解析】

(3) 展開

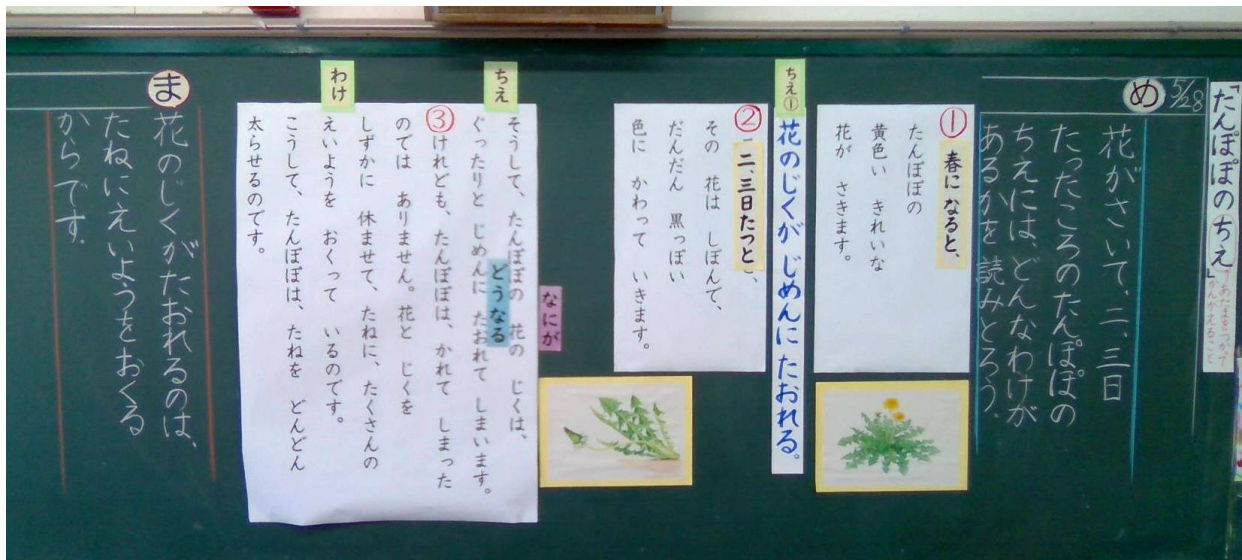
過程	主な学習活動	○指導上の留意点 ◇RS との関連	備考
導入 10 分	1 P43L1～P44L8 を音読し、時を表す言葉を確認する。 T: いつのたんぽぽの様子が書かれていましたか。 C: 二, 三日たったころ。 2 たんぽぽの知恵を捉える。 T: 花が咲いて二, 三日たったころのたんぽぽは, どんな知恵をはたらかせていましたか。 C: 花のじくがたおれる知恵。	○時を表す言葉に気を付けて音読させる。 ○<u>花が咲いて</u>二, 三日たったころのたんぽぽであることをおさえる。 ○前時までに捉えた知恵について確認する。	・教材文(拡大)
展開 25 分	3 本時のめあてを確認する。 花がさいて, 二, 三日たったころのたんぽぽのちえには, どんなわけがあるかを読みとろう。 4 花が咲いて二, 三日たったころのたんぽぽの様子を読み取る。 教科書を読みながら, サイドラインを引かせたり, 挿絵と文章を線でつなげたりする。 (「何が」…赤「どうなる」…青) 5 花の軸が地面に倒れてしまう理由を読み取る。 T: 花の軸が地面に倒れてしまうのはなぜですか。そのわけが書いてあるところに線を引きましょう。 C: 花と軸を静かに休ませて, たねに, たくさんのえいようを送っているのです。 6 花が咲いて二, 三日たったころのたんぽぽの知恵とそのわけを整理する。	◇P43L1～P44L2 を, 「何が」「どうした(どうなる)」のかを確認することで, 一つ一つの文の内容を正確に読み取らせる。 《視点①》 ◇挿絵と文章を照応させたり動作化させたりしながら読み取らせることで, たんぽぽの様子を正しく理解させる。 ○わけが書かれているところに線を引かせる。 ○P44L3～L8 を, 文末表現に着目して読ませる。 ○わけを表す文は, 文末が「…のです。」となっていることをおさえる。 ○本時の学習のまとめをする。	【係り受け解析】 ・主語述語カード 【イメージ同定】 ・挿絵
終末 10 分	花のじくがたおれるのは, たねにえいようをおくるからです。 7 本時の学習を振り返り, 次時の見通しを持つ。 C: 花とじくを休ませて, たねをどんどん太らせるところがすごいな	○たんぽぽの知恵について思ったこ	【係り受け解析】 ・ワークシート ・パソコン

	あと이었습니다。	とを発表させる。 ◇RS の読み取り問題で理解を確認する。 ① ぐったりとじめんにたおれてしまうのは（ ）です。 ② 花のじくがたおれるのは、（ ）からです。 《視点①》 ○解答に迷っている児童には、教科書の書込みやノートのまとめを振り返らせる。	
--	-----------------	---	--

(4) 評価規準（評価方法）

「何が」「どうした（どうなる）」のかを確かめたり文末表現に着目したりして読み、花が咲いて二、三日たったころのたんぽぽの知恵とその理由を捉えている。（発言・ワークシート）

(5) 板書



8 考察

- RS の視点を指導案検討の際に 1 つに絞り、それを本時で適切に押さえて指導していた。
- 「係り受け解析」は読解力の基礎となる部分であるし、低学年ということもあり、丁寧に指導することは必要である。今回の授業では丁寧に指導しており、よかった。
- 授業の視点は「係り受け解析」ではあるが、教科書の挿絵と文や言葉を結びつける活動（イメージ同定）も、説明文を読むためには適切な活動だった。
- 教材文の理解を通して、児童はたんぼぼに対する興味・関心を高めることができた。実物を観察したり、関連する本を探して読んだりするなど、活動を広げることができていた。
- 最後に取り組んだ評価問題によって、本時の目標を達成することができたかを児童自ら評価することができていた。また、指導者にとっても、指導の手立てが適切であったかを振り返り、次の指導にすぐに生かすことができた。

△2年生初期段階の説明的文章の学習であったために、一つ一つ丁寧に押さえるあまり、発問が多くなってしまっていた。今後は、学習が進む中で徐々に児童が主体的に学習に取り組み、思考したり考えを書いたりする活動を増やしていけるように指導を継続していきたい。

△今、指導者が児童に発問したり声をかけたりしている内容（問題分野の6つの視点）を、今後は児童が、読み取るときに活用することができるような姿を目指して、低学年のうちに必要な読みの基礎的な力をつけていきたい。

△発問が多く、一問一答形式の授業になってしまい、主体的で対話的な学びができていなかったのではないかと。改めて「対話的な学び」の定義を確認し、指導の手立てや発問を工夫していく必要がある。

△国語科の授業での評価問題は斬新で成果も多い。しかし、今後取り組んでいく上で、「何のために取り組むのか。」「何のための評価問題なのか。」を明確にして取り入れることが大切である。また、国語科に限らず他の教科でも取り入れていくことも検討していきたい。

第5学年社会科学習指導案

令和2年6月19日（金）第3校時

児童数 ○○名

指導者 教諭 ○○ ○○

場 所 5年○組教室

1 単元名 国土の気候と特色 「つゆと台風、季節風」（全3時間）

2 単元について

○児童観

4月に実施した「学びのアンケート」によると、「文を読むときに大切な言葉に○を付けたり、線を引いたりしているか。」という質問に対しての本学級の回答は、「よくある」2名、「ときどきある」14名、「たまにある」16名、「ない」0名であった。

「わからない言葉があるときに、辞書を引いているか。」という質問に対しては、「よくある」6名、「ときどきある」11名、「たまにある」10名、「ない」5名であった。

「算数の文章問題で迷ったときに表や図などをヒントにして解いているか。」という質問に対しては、「よくある」3名、「ときどきある」8名、「たまにある」18名、「ない」3名であった。

このことから本学級の児童は、新しい言葉に対して、興味を持って国語辞典を使う児童が多いことが分かる。しかし、文を読むときにマーキングをすることや、文章に書いてあることを表や図に表すことが自分の理解を深めるために有効であることが実感できていない児童が多いことが分かる。

社会科「世界の中の国土」では、地図帳を使い、日本の位置や主な国の位置を覚える活動に取り組んだ。

○単元観

本単元の学習内容は、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土、国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活、である。

小単元「世界の中の国土」では、広い視野から日本の様子に関心を持たせ、地図帳や地球儀、各種の資料を使用しながら、世界の中での日本の位置を調べる活動を取り入れている。さらに、視点を日本に近づけ、国土の構成や領土の範囲を具体的に捉えさせていく。

小単元「国土の地形の特色」、「低い土地／高い土地の暮らし」、「日本の気候の特色」、「あたたかい土地／寒い土地の暮らし」においては、地形の様子を空中写真から推論したり、気候の様子をグラフから読み取ったりしながら、国土全体の特色をつかませる。そして、地形と気候、それぞれの条件から見て特色ある具体的な地域を取り上げ、そこにくらす人々が、自然条件に適応しながら工夫して生活していたり、自然条件を生かしながら産業を営んだりしていることに気付かせる。

これらを通して、我が国の国土の様子や気候の概要を理解し、日本の位置や地形と関連付けながら国土の特色を意欲的に追究するという点で意義深い単元といえる。

○指導観

本小単元では、日本の気候について、四季の変化や国土の南北や地形、季節風の影響などの基本を身につけ、今後の学習に生かせるような概念形成をめざしている。そこで、位置や空間的な広がり の視点をもたせるため、児童の生活経験や身近な地域の気候と関連づけながら、各時の展開を行いたい。

第1時では、地図や写真資料を提示し、同じ場所でも四季の変化があることや佐世保市と比べて長野県は積雪量が多いことなどに着目させたり、同じ時期でも地域によって気候に違いがあることに気付かせたりする。そこから、なぜ気候の違いが生じるかを推論させ、学習問題を立てる活動へとつなげていく。

本時では、7月（夏）と1月（冬）の降水量がちがう理由を考えることを通して、つゆ、台風、季節風それぞれの特色が日本列島の気候に影響を及ぼしていることに気付けるようにする。さらに、夏の季節風の説明文とイラストを対応させ線で結んだり、冬の季節風の説明文を読みイラストに自分で季節風、雪などを書き加えたりしながら理解を深めていく。ここでは、それぞれの気候現象が人々の暮らしに及ぼしている影響を考えるなかで良い面にも目を向けさせるよう留意する。

第3時では、まず、那覇市を例に挙げながら、「まなび方コーナー」を活用して降水量と気温のグラフの読み取り方を確認したり、南西諸島の気候のグラフとそれを説明している文を対応させたりする。さらに、前時までの学習内容も振り返りながら、5つの気候のグラフと説明している文（地域）を対応させる活動を行う。最後に、これまで学んだキーワードを使って、自分の考えを文章で表現させる。ここでは、教科書の「ひろとさんのまとめ」を読み取り、正しい内容を記述しているかどうかを自分で判定し、同義でなければ加除修正することを通して、日本の気候の特色とそれに影響を与える事柄を整理してまとめられるよう指導する。

○読解力の視点を踏まえた指導のポイント

「国土の気候の様子を捉え、国土の気候の特色を考え、我が国の国土の気候の概要を理解するための指導」

【イメージ同定】～文章と図を対応させよう～

- ・児童の意見と資料を対応させながら、7月と1月の降水量や風向き、夏と冬で降水量が違う理由などを確認する。
- ・夏の季節風の説明文と絵を対応させ、線で結ぶ。
- ・冬の季節風の説明文を読み、ワークシートの絵に、季節風の風向き、雪などをかき込む。

3 単元の目標

- ◎ 我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることができる。 [知識及び技能] (1) ア (ウ)
- ◎ 国土の気候の様子を捉え、国土の気候の特色を考え、我が国の国土の気候の概要を理解することができる。 [知識及び技能] (1) ア (イ)
- 国土の気候に着目して、問いを見出し、国土の気候の様子について考え表現することができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1) イ (イ)
- 我が国の国土の気候の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追及し、解決しようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の気候について、地図帳や地球儀、各種の資料を調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の気候の様子を理解している。(1) ア (ウ))	①国土の気候に着目して、問いを見出し、国土の気候の様子について考え表現している。(1) イ (イ))	①我が国の国土の気候の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の国土の気候の概要を理解している。(1) ア (イ))		

5 指導計画（全3時間）

時間	主な学習活動	R S との関連	
		視点	指導上の留意点
1	国土の気候の様子は場所によってちがいがあることについて興味をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	具体例同定（辞書） 推論	・「気候」、「四季」の意味を知る。 ・既存の知識と新しく得られた知識から判断する。
2 (本時)	つゆ、台風、季節風は我が国の気候を特色づけている現象であり、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしていることを理解する。	具体例同定（辞書） イメージ同定	・「季節風」、「降水量」の意味を知る。 ・説明文と図を対応させる。
3	地図と気温、降水量のグラフなどの資料を活用して、日本の各地域の気候の特色について調べたことや考えたことをまとめ、気候の特色と人々の暮らしとの関連などについて自分の考えを表現する。	具体例同定（辞書） イメージ同定	・「気温」、「地形」の意味を知る。 ・説明文と図を対応させる。

6 本時の指導（2／3）

(1) 本時の目標

つゆ、台風、季節風は我が国の気候を特色づけている現象であり、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしていることを理解する。

(2) 授業の視点

- ① 辞書の定義を用いて、新しい語彙とその用法を獲得できる。【具体例同定（辞書）】
- ② 文と資料を正しく対応づける。【イメージ同定】

(3) 展開

過程	主な学習活動	○指導上の留意点◇RS との関連	備考
導入 5分	1 日本の気候を特色づけているつゆ、台風、降雪に関わる景観写真を見て、どの季節の写真か予想する。 ①資料[3]、[4]、[6]の写真を提示し、それぞれの写真がいつごろのものか予想する。なぜそう思ったのかも発表する。 C: あじさいが咲いているからつゆで6月。 C: 台風が来ているので夏か秋。 C: 雪が降っているから冬。	○資料[3]、[4]、[6]の写真をそれぞれ提示し、季節はいつごろのものかを予想する。写真からつゆ、台風、降雪は身近なものであることに気づかせる。	資料[3]、[4]、[6]の拡大図
展開 2分	2 つゆ、台風について調べる。	○児童の思考を深めるため、つゆ、台風を定義している文に線を引かせたり、台風の進路図を確認したりしておく。	デジタル教科書
10分	3 資料[1]を見て、気づいたことを話し合う。 ①資料[1]を見て、気づいたことをワークシートに記入する。 C: 7月に降水量が多い地域が多い。 C: 7月と1月は風向きが違う。 C: 1月を見ると、日本海側と太平洋側で降水量が違う。 ②デジタル教科書で、7月、1月の風向き、50mm未満～400mm以上の降水量の地域を確認する。	◇「降水量」の意味をおさえる。 《視点①》 ○資料を読み取ることが難しい場合には、「日本海側だけで7月と1月に注目しよう」「風向きに注目してみよう」「1月だけ見てみよう」など視点を与える。 ◇子供たちの意見と資料を対応させながら確認する。 《視点②》	資料[1]の拡大図 ワークシート デジタル教科書
10分	4 資料[2]～[7]や本文から7月(夏)と1月(冬)の降水量が異なる理由を話し合う。 ①なぜ7月と1月では降水量が違うか、つゆ、台風、季節風の特徴から考え、ワークシートに記入する。 C: 7月はつゆや台風の影響で雨が多く降る。 C: 1月は季節風の影響で日本海側は雪が多く降るから、日本海側は降水量が多くなる。	◇「季節風」の意味をおさえる。 《視点①》 ○資料を読み取ることが難しい場合は、[2]、[5]の資料を見て考えるように助言する。 ◇子供たちの意見と資料を対応させながら確認する。 《視点②》	ワークシート

10分	5 季節風の理解を深める。 ①資料[5]の説明文と夏の絵を対応させる。 ②資料[5]の冬の絵をワークシートにかく。	◇資料[5]の説明文と夏の絵を対応させ、線で結ぶ。 《視点②》 ◇資料[5]の冬の説明文を読み、ワークシートの絵に季節風、雪などをかき込む。 《視点②》 ○書画カメラで児童のワークシートを映し、確認する。 ○ワークシートと実際の積雪、晴天の写真を対応させ、季節風による気象の変化を実感させる。	資料[5]夏の絵の拡大図 ワークシート ワークシート 書画カメラ 資料[5]冬の絵の拡大図
5分	6 つゆ、台風、季節風とその影響について調べ、まとめる	○教科書 p. 4 5 を使ってまとめる。 ○北海道はつゆがないことをおさえる。 ○「つゆの雨は農作物へのめぐみの雨ともいわれる、台風は夏に水不足になったときのめぐみの雨だ」など良い面にも目を向けさせるようにする。	ワークシート デジタル教科書
終末3分	7 本時のまとめをする。 ①本時のまとめをワークシートに書く。		
日本のつゆ、台風、季節風は日本の気候を特色づけている。また、それらは人々のくらしに大きく関係している。			

(4) 評価規準（評価方法）

つゆ、台風、季節風は我が国の気候を特色づけている現象であり、人々のくらしに大きな影響を及ぼしていることを理解することができたか。（発表・ワークシート）

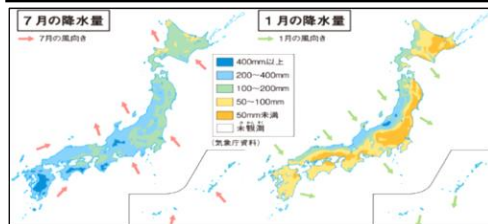
(5) 板書計画

つゆと台風、季節風

㊦ 日本の気候を特色づけている気象現象を調べよう。

「降水量」とは、雨や雪、霜などがふった量のこと。水として計算し、その量をmmで示す。

「季節風」とは、季節によってふく方向がかわる風のこと。



資料①を見て、気づいたこと。
 ○7月は降水量が多い地域が多い。
 ○7月と1月は風向きがちがう。
 ○1月は、日本海側と太平洋側で降水量がちがう。

7月（夏）と1月（冬）の降水量がちがう理由。



夏には、太平洋から季節風がふき、太平洋側にたくさんの雨をふらせませす。



㊦ 日本のつゆ、台風、季節風は日本の気候を特色づけている。また、それらは人々のくらしに大きく関係している。

7 考察

○授業の進む速度が適切である。

○ICT機器(デジタル教科書)の活用の仕方が良く、児童の理解を促した。

○普段から辞書で用語を調べる活動をしていたため、辞書を引く速度が非常に速かった。

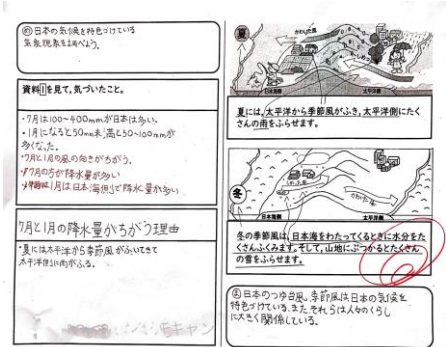
○児童は冬の季節風における影響について説明文を読んで絵に表せていた。(夏の季節風は教員と確認をしていたため)

△板書や資料が多く、児童の考える視点が定まらなかった。

△低位の児童のことも考慮し、スモールステップの方法を取り入れた展開を組み立てる必要がある。

△この小单元ではワークシートを活用したが毎回の授業でワークシートを活用するのか。(RSにおいてはワークシートを推奨していないため。)

(授業の様子・ワークシート)



第4学年国語科学習指導案

令和2年7月2日（木）第3校時

児童数 ○○名

指導者 教諭 ○○ ○○

場 所 4年○組教室

- 1 単元名 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう
「アップとルーズで伝える」（全8時間）

2 単元について

○単元観

学習指導要領の改訂により、「C 読むこと」の指導事項は学習過程に沿って「構造と内容の理解」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」の4点で構成されている。第4学年では、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係について読み取る学習を繰り返していく。

本単元は、練習教材「思いやりのデザイン」と本教材「アップアップとルーズで伝える」の2教材で構成されている。練習教材で学んだことを生かして本教材の学習に取り組み、対比的な段落關係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成を捉える中で、対比的に説明することのよさに気づかせる。そして、その後に設定している「考えと例」によって、説明文で学んだことを情報と情報の關係から捉え直し、他領域でも活用できる力とすることをめざしている。

○児童観

本学級の児童は、3年生で「言葉で遊ぼう/こまを楽しむ」では、「段落とその中心を捉えて読む」学習を経験し、「全体と中心」では、全体と中心の關係に着目して、理解・表現する学習をしてきた。

4月に実施した「学びのアンケート」によると、「文を読むときに大切な言葉に○をつけたり線を引いたりしているか。」という質問に対しての本学級の回答は、「よくある」…7名、「ときどきある」…23名、「たまにある」…6名、「ない」…1名であった。また、「わからない言葉があるときに辞書を引いているか。」という質問に対しては、「よくある」…12名、「ときどきある」…14名、「たまにある」…11名、「ない」…0名という回答であった。本学級の児童は、昨年度からの研究によって語彙を増やし、辞書を引いて新たな知見を得ようとする意欲が高まっていることが想定できる。

しかし、5月に実施した学力調査では問題を読むことに時間がかかり、選択肢問題にも関わらず無回答があり、さらには作文問題まで到達できなかった児童がいた。説明文問題の正答率は個人差が著しい。説明文を読むときには、「初め・中・終わり」に気をつけて読むことなどを学習してきているが、段落相互の關係を理解し、構造と内容の把握については十分とはいえない。

○指導観

本単元の指導にあたっては、本文をしっかりと音読させ、係り受けや照応關係を正確に把握させたい。家庭学習でも音読を課題とする。分からない言葉は辞書を引かせ、意味を確定させておく。練習用に思いやりのデザインという教材があるので、ここで文の基本的な構造と筆者の考えがどこに書いてあるか捉えさせてから、「アップとルーズで伝える」に生かすようにする。単元の第一時では8時間を見通した学習計画を児童に示し、学びを継続・発展させたい。ノート指導にも力を入れ、板書を機械的に写すのではなく、思考活動がノートに反映されるように計画を立てる。主体的で対話的な学びを構築するために、ノートや話し合いを活用した交流を入れる。「対比」による思考・説明・表現ができるようになるために、文例を示し、何度も練習させて発表へとつなげたい。

○読解力の視点を踏まえた指導のポイント

「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えるための指導」 【係り受け解析】～だれが何をどうした～

- ・表現の特徴である対比や類比による説明について理解を深める。
- ・主語・述語・目的語を明らかにし、省略されている表現について考える。
- ・指示語・接続詞に気をつけて、文章を読む。
- ・筆者の「考え」と「理由」「例」を区別して読む。

3 単元目標

- ◎ 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能] (2)ア
- 主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。
[知識及び技能] (1)カ
- 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)ア
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
- 言葉がもつよさに気づくとともに、言語感覚を養い、国語を大切にして、思いや考えを伝えあおうとする。
[学びに向かう人間性等]

4 単元で取り上げる言語活動

文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする。
(関連：[思考力、判断力、表現力等] C(2)ア)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) = 評規 A ・ 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) = 評規 B	・ 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) = 評規 C ・ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えを持っている。(C(1)オ) = 評規 D	・ 考えとそれを支える理由や事例との関係について理解し、学習課題に沿って分かったことや考えたことを、進んで説明しようとしている。= 評規 E

6 指導計画（全8時間）

次時		主な学習活動	RS との関連	
			視点	指導上の留意点
と ら え よ う	1	① 単元の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。 ② 「思いやりのデザイン」を読み、段落や「初め・中・終わり」の構成・文章の話題を捉える。	係り受け解析 イメージ同定	・P47の単元扉やP7を活用し、既習事項の確認をさせる。 ・「初め・中・終わり」に書かれていることを捉える。 評規A ・何度も音読させ、辞書も引かせる。 ・「対比」という学習用語を指導した上で、どのように説明されているかをとらえさせる。 評規B
	2	③ 筆者の考えとその説明のしかたについて考える。 ④ 筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、発表する。		・「初め」と「終わり」に筆者の考えが述べられていることを確かめる。
	3	⑤ 「アップとルーズで伝える」を読み、話題と文章構成を捉える。 ⑥ 筆者の考えがどの段落にあるか考える。		・段落に番号を打ち、写真と本文の関係を捉えるなどして、文章全体をつかむ。 ・筆者の考えが2度書かれていることを確かめさせ、その理由も話し合わせる。 評規C
ふ か め よ う	4	⑦ 各段落に書かれていることを捉える。 ⑧ 文章を「初め・中・終わり」に分ける。 ⑨ 問いと答えの段落・文を探す。	係り受け解析 照応解決 イメージ同定	・段落に書かれている事柄と段落相互の関係を捉えさせる。 ・「終わり」をどこで捉えるかについて話し合わせる。 評規A・E
	5	⑩ 第4・5段落を読み、内容を捉える。 ⑪ 4・5段落と第6段落の関係を確かめる。 ⑫ 対比して説明することのよさについて考える。		・「対比」的に説明されていることを確かめさせる。 ・対比によって、それぞれの長所と短所が明確になっていることへの気づきを促す。 評規C・D
	6	⑬ 第7段落の内容を捉える。 ⑭ 第8段落を読んで筆者の考えを確かめ、それに対する自分の考えをまとめる。		・P57上段に示された観点を踏まえ、自分の考えをまとめさせる。 ・本文の一部引用のやり方を示し、模倣させる。 評規E
ま と め よ う	7	⑮ 自分の考えを発表し、交流する。 ⑯ 物事を伝えるときに大切なことは何か考える。	係り受け解析 照応解決 同義文判定 推論	・考えを交流することで、多様な捉えにふれられるようにする。 評規E
	8	⑰ 「考えと例」を読み、具体例を挙げながら考えを伝える。 ⑱ 学習を振り返り、説明的な文章を読むときに気を付けることをまとめる。		・二つの説明的文章を通して学習した「考え」と「例」との関係について、捉え直すよう促す。 評規B・C

7 本時の指導（5／8）

（1） 本時の目標

対比的に説明されている内容を捉え、その説明のよさについて考えることができる。

（2） 授業の視点

- ① 対比的に説明されている内容について「何が」「どうした（どうなる）」のかを確かめながら読むことで、内容を正しく理解して読み取ることができる。

【係り受け解析】

（3） 展開

過程	主な学習活動	○指導上の留意点 ◇RS との関連	備考
導入 5分	1 本時の学習範囲と課題を確認する。 T:「思いやりのデザイン」で学習した「対比」について学習します。学習するところは第四・第五段落です。	○第四・第五段落を学習することを知らせる。	・教材文 デジタル教科書
展開 25分	対比されているものを探し、筆者が対比で説明するわけをつかもう		ワークシート①
	T: 第四・第五段落を縦に並べたプリントを配ります。対比されているものはどれとどれですか。 C1: 絵, 段落。 C2: 文, 「言葉」 C3: 「アップ」と「ルーズ」	○挿絵（写真）段落 文 言葉が対比されていることに気づかせる。 ○できるだけ多くの児童の発言やつぶやきを紹介する。 ○「しかし」、「でも」、「このとき」に着目させる。	【係り受け解析】 デジタル教科書
	2 対比されているものを探す。 T: 対比されているもの同士を線で結びましょう。 T: 大切な言葉を囲み、ノートに書き出してください。 T: 友達に相談してもいいですよ。	◇言葉, 文, 段落それぞれに対比されているものを探させる。 ◇教科書に線を引かせたり, ノートに書き出させたりする。 《視点①》 ○一人で課題解決が困難な児童は友だちと相談してよいことを知らせる。 ○友だちと相談する時間を設ける。 ○児童に発表させて, 黒板に整理していく。 ○ノートにも板書のイメージに沿って書き写させる。	【イメージ同定】 デジタル教科書 【照応解決】 ・挿絵
	3 対比されているものを整理する。 T: 何と何が対比されていましたか？対比の仲間分けをします。 C1: アップの長所と短所 C2: ルーズの長所と短所 C3: アップの長所とルーズの長所 C4: アップの短所とルーズの短所		【係り受け解析】 【照応解決】 デジタル教科書 ・短冊
	5 対比して説明するわけを考える。 T: 筆者はなぜ対比して説明したのですか？ ノートに書きなさい。 C1: 比べて書いていると, 違いがわかりやすい。 C2: 対比することでそれぞれのいい所がはっきり分かる。	○考え方・答え方を教える。 ※「対比で説明した方が, 説明しないより○○だから。」 ○書いたノートを持って来させる。 ○書いたノートを見せ合って, 情報交換をさせる。	【推論】 【係り受け解析】 【照応解決】

終末 15分	対比で説明するとそれぞれの特徴が伝わりやすい		【係り受け解析】 【照応解決】 短冊
	6 練習問題を考える。 7 本時の学習を振り返る。 T: 今日の授業を振り返ってわかったこと、気づいたこと、思ったことを発表しましょう。 C1: 筆者がアップとルーズのいいところと悪いところを紹介していることがわかりました。 C2: 対比すると相手に分かりやすいことを知りました。	◇RS の読み取り問題で理解を確認する。 《視点①》 ○授業を通して分かったこと、気づいたこと、思ったことをノートに書かせる。 ○2～3名に発表させる。 ○「対比」「アップ」「ルーズ」などのキーワードを入れてまとめさせる。	

(4) 評価規準（評価方法）

第4・5段落を読んで対比的に説明されている内容を捉え、具体例を挙げながら対比的に説明することのよさについて考えている（発言・ノート）

(5) 板書

対比で説明するとそれぞれの特徴が伝わりやすい。

なぜ筆者は対比して説明しているのでしょうか？

わからない。

 うつされていない多くの部分は

細かい部分の様子がよく分かる。

顔つき視線・気持ちまでは分からない。

広いはんいの様子がよく分かる。

アップ

 写真

ルーズ

 写真

アップとルーズで伝える

対比されているものを探し、筆者が対比で説明するわけをつかもう

8 考察

- 児童は意欲的に学習することができた。ソーシャルディスタンスをとり、対話的な学びができた。
- 教師の意図が児童に伝わっているか確認しながらの指導がなされていた。
- RS の視点に基づいた指導が図られていた。中間層の児童は上位に入りつつある。



- 評価問題により身につけさせたい力が身につけているか見とることができていた。3分の2の児童が読みとることができていた。
- 発問によって子どもたちが考えるような働きかけをすることができた。
- ノートに自分の考えを書くことができるようになってきた。
- 児童との1対1の対話があったからこそ、省かれた単語にも気づく児童がでたと考えられる。

△指導案の通りにはいかなかった。対比を線で結ぶ際に、まったく違うところに線を引いていたため、確認しながら進めたところ時間がなくなった。

△6 段落については省き、対比のところはなくしたが、段落相互の関係まで踏み込んでもよかった。

△板書を見て、授業の流れがわかりにくかった。児童が見てもわかるような板書にしたほうがいい。

△ラベリングを生かすのであれば、アップの長所ということばを教師が与え、それを児童が探すという活動をしていてもよかった。

△授業づくりの原点は学習指導要領にある。本時におけるRSは何が妥当か、よりどころは指導要領である。抽象的な言葉で かけられてあるものを具現化するのが教材研究である。重点指導事項が何かを確認することも大切である。RSの視点の候補はいくつか上がる。単元や本時を組み立てたうえでてはまる視点を考えた方がよい。言語活動について、単元の導入でゴールの姿をしっかりと押さえなければならない。

△本時は横の対比が出てきていたが、児童が理解していたのかが疑問である。

△アップとルーズの長所のようなラベリングをする時間をいれた。他2クラスではしなかった理解度を見るために行ったが、なくてもよかった。全文シートは教科書のレイアウトそのままで作成した。もう少し見やすくする工夫をしてもよかったと感じる。

△ラベリングを生かすのであれば、アップの長所ということばを教師が与え、それを児童が探すという活動をしてみてもよかった。

[illegible]

さくら学級（情緒学級） 自立活動学習指導案

令和2年7月14日（火）第2校時

児童数 ○名

指導者 教諭 ○○ ○○

○○ ○○

場 所 ○○○教室

1 活動名 「よく聞いて、みんなに伝えよう」（全7時間）

2 活動設定の趣旨

○児童について

さくら学級は、自閉症・情緒障害学級であり、1年生1名、2年生1名、3年生2名、4年生3名、5年生1名、6年生2名の10人が2つの学級に在籍している。それぞれ、自閉症スペクトラムやADHDなどの特性を持ち合わせているため、様々な刺激に敏感で興奮を沈めることができなかったり、気持ちの切り替えに時間がかかったり自分の感情をコントロールすることが難しい。また、友だちとの関わりや、コミュニケーションの取り方にも困難さをもっている。そのため、自立の時間を2時間設定し、支援学級合同で、運動やゲーム、コミュニケーションの練習などを行ってきている。本活動では、3年生～6年生の8人で学習を行う。これまでの学習の中で慣れ親しんできている関係なので、自分の考えを発言することは少しずつできてきている。そこで、今回は参観される先生方を巻き込むことで少し違う環境を意識させ、その中でしっかり聞いてメモを取ること、提示した話型を使いながら聞いたことをわかりやすく正確に伝える学習を行い、基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせたい。

○活動と指導について

自立活動の目標は「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。」ことにある。児童の実態を日常の行動観察、学習面での観察、検査の結果をもとに、自立活動の6つの区分から主に「2心理的な安定」「3人間関係の形成」「5身体の動き」「6コミュニケーション」の4つの区分を重点的に指導している。

今活動では、体操をしてリラックスした後、「インタビューゲーム」と、「作文ゲーム」を行う。「インタビューゲーム」では、参観に来られた先生方に準備しておいた質問を行う。インタビューのマナーを理解させるとともに、答えをしっかりと聞き取りメモを取ること、さらに、自分の感想や意見などを一言でも返すことができるようにさせたい。また、インタビューしたことをみんなに伝える活動につなげたい。その際、「○○先生は、○○と言われました。」という話型を提示することで、聞いたことを伝える話し方を身につけさせたい。「作文ゲーム」では、「主語・述語」を提示し、「いつ・どこで・どんなようす」などの言葉をつなげながら、様子がよくわかる文をつくらせたい。最後には、全員で読み上げ確かめ合いたい。さらに、活動を振り返り、自分や友達の頑張りを認め合い達成感を共有したい。

このような活動を通して、他者と関わる楽しさや人に伝える喜びを味わい、周囲の人にもっと関わろうとする意欲をもつことができると考える。

○読解力の視点を踏まえた指導のポイント

**「主語・述語のつながりを考えて、わかりやすい文をつくる力を育成するための指導」
【係り受け解析】～だれが何をどうした～**

- ・話型を示すことで、インタビューした内容を正しく伝えることができるようにする。
- ・「いつ」「どこで」「どのように」などのカードを示すことで、何を詳しくするかをはっきりさせ、わかりやすい文をつくることができるようにする。

3 指導計画（全7時間）（※さくら1・2，なかよし学級合わせて15名での自立活動）

次時	主な活動	RS との関連	
		視点	指導上の留意点
1	※自己紹介をする。	係り受け解析	・みんなの前で，自分の名前や好きなものを紹介させる。はっきり話したり，聞いたりすることの大切さを認識させる。
2	※「フルーツバスケット」をする。	具体例同定	・6年生が集まってゲームのルールを考えて，みんなに紹介してゲームを行う。わかりやすいように易しい言葉で簡潔にまとめ，伝えるようにさせる。
3	※「もうじゅうがりゲーム」をする。	係り受け解析 照応解決	・ゲームによって集まったグループで自己紹介をさせる。その後，隣の友達の名前を紹介できるように意識づけて聞かせる。
4	○ 作文ゲームをする。	係り受け解析	・「いつ」「どこで」「誰が」「誰と」「どこで」{何をした} に合う言葉をそれぞれが一つずつかき出し，組み合わせた文の面白さを感じたり，文として成立するかどうかを話し合ったりさせる。
5 本時	○ 友達にインタビューをしてみんなに伝える。	係り受け解析	・伝聞の仕方を確認し，皆の前で伝えさせる。
	○ 主語・述語を決め，みんなで作文ゲームをする。	係り受け解析	・文章を詳しくわかりやすくするために主語・述語に合った言葉を付け加えた文を作らせる。
	○ 先生方にインタビューして聞いたことを伝える。	係り受け解析	・話し方・聞き方のポイントをおさえ，聞いたことをメモしたり，質問し返したりしたことをみんなに伝えさせる。
	○ 主語・述語を決め，みんなで作文ゲームをする。	係り受け解析	・前時と比べ，よくなった点を伝え合って，文作りの楽しさを味わわせる。
	○ 学習の感想をまとめる。	推論	・学習した感想をみんなに伝える。

4 本時の指導（6／7）

（1）本時の目標

- ・インタビューした内容を正確に聞き取り，「〇〇先生の□□は△△だそうです。」の話型を使ってみんなに伝えることができる。
- ・主語や述語を意識して文章を作ることができる。

(2) 授業の視点

- ① 話型を提示することで、適切なインタビューを行ったり、内容を伝えたりすることができる。
【係り受け解析】
- ② 提示した主語・述語に合わせて修飾語を付け加え、文を構成していくことで分かりやすい文をつくることができる。
【係り受け解析】

(3) 展開

過程	主な学習活動	○指導上の留意点◇RS との関連	備考
導入 3分	1 学習活動と本時の流れを知る。	○1時間の流れを知らせ、活動の見通しを持たせることで落ち着いて学習に向かう姿勢をつくる。 ○視覚的に学習の流れを示し、学習の内容を知らせることで、見通しをもたせる。	CD・ ラジオの 用意 学習の流 れカード
展開 27分	(1) ラジオ体操をして、体をほぐす。 (2) めあてを知る。 よく聞いて考えよう。 2 本時のゲームを知る。 (1) 「インタビューゲーム」をする。 ①説明を聞く。 ②参観されている先生にインタビューをする。 ③発表する準備や練習をする。 ④みんなの前で発表する。 (2) 作文ゲーム ① 説明を聞く。 ② 主語・述語を提示する。 ③ 言葉を考えつないでいく。 ④ 作った文を全員で読む。	○6年児童をリーダーに据え、気をつけることや良かったことを伝えさせる。 ○人の話をよく聞いてゲームを進めることを伝える。「聞いて、話す」ことには、耳・目・口・態度がとても大切なことを確認する。 ○ルールを確認する。 ○教師が手本を見せ、やり方を確認する。あいさつをすることやしっかり顔を見てインタビューすることなど態度についても確認をする。 ○話型を確認して、インタビューしたことをみんなに伝える練習をさせる。 ○話し方・聞き方のポイントをおさえる。 ○意欲的に取り組めない児童に、声かけをする。 話型を提示することで、適切なインタビューを行ったり、内容を伝えたりすることができる。 《視点①》 ○「いつ」「どこで」「だれと」「どのように」のカードを提示し、主語・述語に合った言葉を考えさせ、言葉をつないで文を作っていく面白さを味	【係り受け解析】 【係り受け解析】

		わわせる。 ○8人全員が参加できるように短くわかりやすい言葉を考えさせる。 提示した主語・述語に合わせて修飾語を付け加えながら，文を構成していくことで，分かりやすい文をつくることができる。 《視点②》 ○発言できない児童がいたら，ヒントを与えたり，他の児童に相談させたりする。	
終末 10分	3 振り返りをする。 ・自分がどんなことをがんばったかを評価する。 ・めあての振り返りをする。	○活動の中で自分が頑張ったことや，友達の良かったことを伝え合う。 ○「よく聞いて伝える」ことができたか，考えさせる。	

（４）評価

- ・インタビューした内容を正確に聞き取り，「○○先生の□□は△△だそうです。」の話型を使ってみんなに伝えることができたか。
- ・主語や述語を意識して文章を作ることができたか。

（５）板書計画

述語 	「どのように」 「だれと」 「どこで」 「いつ」 	主語 	作文ゲーム 	伝え方 	インタビューゲーム 	④ よく聞いて考えよう	③ ② ① ラジオ体そう インタビューゲーム 作文ゲーム	今日のべんきょう
------------------------	---	------------------------	---------------------------	-------------------------	-------------------------------	--	---	--



5 考察

- 集中力が難しい児童が、どの時間も集中して取り組むことができるようになった。
- 異年齢の学び合いの中で、教え合ったり助け合ったりすることができた。
- 話型の型を提示したので、どの子も活動することができた。
- 校内研修のねらいとリンクした自立活動になっていた。
- あいさつから発表の仕方まで学習できるインタビュー活動は、コミュニケーション力の育成につながった。
- 文作りを楽しんで行うことができた。
- 「主語」「述語」を意識して文の構成を考えることができた。
- 日記には、修飾語を活用してわかりやすく書くよう心掛けるようになってきた。

△能力に応じた学習活動を仕組んでも良かったのではないかな。

△言葉の意味を丁寧にとらえる時間もあつたほうがよかったのではないかな。

△振り返りにもっと時間をかけて、学習のまとめをしてもよかったのではないかな。

「評価問題」の取組について

○全校の共通実践として国語・社会・算数・理科の教科で、本時のまとめの後に実施する。

○ねらい

- ・児童：本時の学習の達成を自己評価する。
- ・教師：一人一人の理解度を把握し、次時の指導に生かす。

○作問にあたっての視点。

- ・本時のねらいに応じた問題の作成。
- ・読解力に関連した問題の作成。
- ・または、その両方。

実践例① 1年生 国語「はなのみち」

- ・読解力に関連した作問。係り受け解析において、主語を問う意図で作成した。

はなのみち

きょうかしよを よくよんでこ
たえましょう。

① () が、
せいかいは どれでしょう。
ふくろを みつけました。

1 すずめさん
2 くまさん
3 りすさん

はなのみち

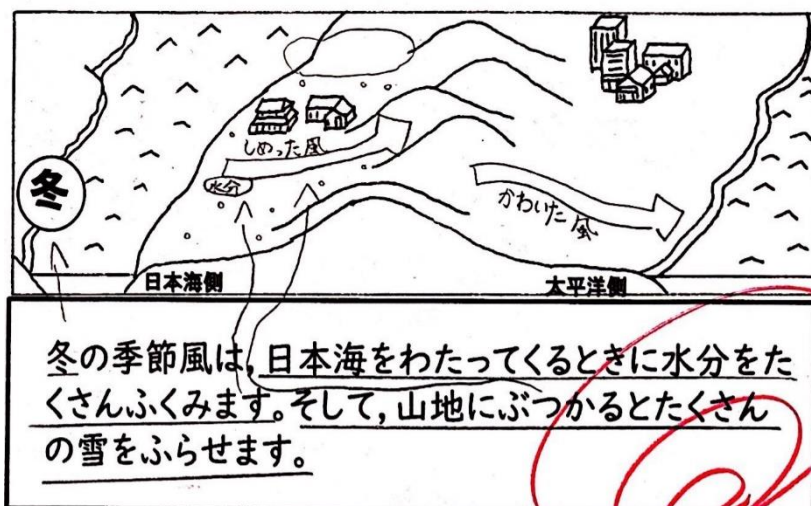
きょうかしよを よくよんでこ
たえましょう。

③ だれが ふくろを
あけましたか。

1 くまさん
2 りすさん
3 かえるさん

実践例② 5年生 社会 「国土の気候と特色（つゆと台風、季節風）」

- ・読解力に関連した作問。イメージ同定において、説明の文を読み冬季の季節風の方向とその特徴を問う意図で作成した。



III 研究の成果と課題



「よむよむチャレンジで楽しく学んでいるよ。」



「今日の学習で大切なことがわかったかなあ。」



【言葉と具体物との提示】



【国語辞典の活用 調べた言葉に付箋を貼る】

2年間の研究を通して、多くの成果と、今後さらに研究を進めていくための課題が見えてきた。
本校の研究仮説や具体的な取組についての成果と課題は、次の通りである。

1 成果

研究を始めた昨年度当初は、「読解力＝国語」とであると解釈し、国語に絞って研究を進めようと思っていた。しかし、研究を進めていく中で、「読解力＝国語」というわけではなく、読解力はどの教科においても学習の基礎であるとの認識のもと、教科や単元の目標を達成させるための手立てとして読解力の視点を取り入れた授業を進めていくことが大切であるということを確認することができた。

（１）児童の学力、読解力の測定・分析について

- RSTの結果から、児童の読解力のどの問題分野につまずきが見られるのか、どの分野の力を高める必要があるのか、読解力向上の具体的な方向性をつかむことができた。
- 6年生は、昨年度（5年時）と今年度の計2回RSTを受検した。その結果を全国平均に対する達成率で比較してみると、7つの問題分野のうち、イメージ同定は91.52%→94.62%、具体例同定（辞書）は94.28%→95.82%というように、昨年度より高くなっていた。このことから、イメージ同定については、授業の中で図や表などの資料と文章とを結びつけて読んだり、文章を図に表したりして考えを深める実践を繰り返し行ったことが成果につながったと考えられる。また、具体例同定（辞書）については、授業や家庭学習の中で意味の分からない言葉に出会ったときに、児童が自ら国語辞典を引いて意味を確かめる習慣がついたことが成果として表れてきていると考えられる。
- 学力調査の国語の結果を見てみると、佐世保市の平均と比較したときの達成率は、令和元年度（R1.6.13）に実施した県学力調査が89.3%、令和2年度（R2.7.29）に実施した全国学力学習状況調査が97.4%と、8.1%高くなった。市の平均にはまだ到達してはいないものの、着実に力が身に付いてきていることがわかる。

特に、今年度の全国学力学習状況調査について、項目別に見てみると、「叙述を基に想像して読む」「目的や意図に応じて文章全体の構成を考える」「表を用いた目的を捉える」項目において、いずれも市の平均正答率を上回る結果となった。

このことから、当初の本校の課題であった読む能力（読解力）の向上について昨年度から研究を続けてきた成果が徐々に出てきたのではないかと考えられる。

- MIMを実施することで、児童の読みについての実態を把握し、読むことそのものにつまずきがある児童への手立てを行うことができた。
- 学びのアンケートを実施することで、教師も児童も、アンケートにある3項目を意識して指導に当たったり、学習を進めたりするようになった。

国語1 文を読むときに大切な言葉に○をつけたり線を引いたりしているか。	・教科書等の文や言葉に線を引くときに、何となく引くのではなく、大切な言葉を考えて引くことができるようになった。 ・テストの本文や問題文への書き込みをしたり線を引
--	---

	いたりしながら問題を解く児童が増えてきた。 ・初めは教師が主導で大切な言葉や文，根拠となる文などに線を引かせることで，徐々に自分たちでも根拠となる文に線を引くことができるようになってきた。
国語 2 わからない言葉があるときに，誰かに意味を聞いたり国語辞典を引いて意味を調べたりしているか。	・授業等で意識して児童に言葉の意味を問うようになった。すると，児童の語彙がとても少ないということに気付き，さらに意識して言葉の意味を確かめから指導に当たるようになった。（1，2年） ・国語辞典を引くスピードが速くなった。 ・「わからない言葉があったら辞書を引く。」ことが当たり前になってきた。
算数 文章問題を解くときに，大事な言葉や数字などに○をつけたたり線を引いたりしているか。（1～2年） 文章問題で，表や図などをヒントにして問題を解いているか。（3～6年）	・文章問題を読むときには，「わかっていること」「求めること」や数値，単位などに線を引いたり印をつけたたりしながら読むようになった。 ・問題文の単位に気を付けるようになった。

(2) 授業改善の取組

① 問題分野に関して

【係り受け解析】

- 普段の授業の中で，以前より言葉の意味や主語，述語などを確認して授業を進めるようになった。言葉の意味を問うことで，児童は，教師が思う以上に言葉の意味を理解していないことが明らかになり，言葉の意味を理解して文章を読むことの大切さを改めて認識するようになった。
- 「主語・述語カード」は，国語以外にも各教科で活用した。そうすることにより，児童は，主語と述語の関係について，徐々に理解力が高まってきている。
- 以前は，話したり書いたりした内容の係り受けが間違っていることを指摘しても，何を間違っているのか理解できなかったが，間違いに気付き，正しく言い直したり書き直したりできるようになってきている。
- 主語と述語を意識させるようになったことで，文を作ることにも慣れ，日記にも生かせるようになった。
- 主語・述語などを捉えたり言葉の意味を確かめたりして丁寧に読むことは，時間も根気も必要だが，継続することで，児童が「丁寧に読むことの大切さ」を意識するようになり，テスト等においても空欄のままにする児童が減ってきた。

【照応解決】

- 授業の中で指示語が指すものが何かを押さえることで、児童は、指示語が指すものが何かを考えて読むようになってきた。
- 音読をしながら、文中に主語が書かれていないときの主語や、指示語が何を指すかを問うことで、児童は文の意味をより丁寧に理解して読むことができるようになってきた。

【イメージ同定】

- 教科書の文と挿絵や写真とをきちんと照応させるような読み方の指導をするようになった。それにより、児童は文の意味をより理解して読むことができるようになった。
- 表やグラフなどの資料の数値や変化の様子と教材の文章とを関連付けて読むようになった。

② 教科書、ノート、ワークシートの活用について

- 教科書の教材文に書かれている「何が」(主語)「どうした」(述語)のかを確かめて線を引いたり、挿絵と文章を照応させて線でつないだりすることで、教科書にある文の内容を正確に読み取ることができるようになり、教科書を丁寧に読もうとする意識が高まった。(2年 国語科)
- 教科書の本文から、キーワードを見付けて線を引かせたり本文や資料を読み取ったりすることで、児童は、教科書の本文や資料を考えの根拠として、意欲的に話し合ったりまとめたりすることができていた。(5年 社会科)
- 自分の考えをノートに記入することで、児童は話し合うときにノートを見ながら友達と考えを交流し、考えを深めることができた。(4年 国語科)
- 「つゆと台風、季節風」の学習の中で、図がかかれたワークシートを使うことで、児童は季節風についての理解を深めることができた。(5年 社会科)
- ノートの取り方には個人差がある。ワークシートを活用することで、学級の全ての児童が同じスタートラインに立って、問題文を図に表したり図から式につなげたりする学習に取り組むことができた。(3年 算数科)

③ 教師の意識の変容について

- 問題に対する自己の考え→観察・実験計画(結果の予想)→結果処理→考察という理科学習の各過程において、教科書の文章を活用させることで、児童の思考の手助けとすることができた。
- 各単元で押さえておきたい言葉や、読解力を伸ばすための指導のポイントをどこに置くかなどについて意識しながら授業を進めることができた。
- 評価問題は、単元や本時の目標を達成することができたかを教師も児童自身も評価することができ、それを次の指導や学習にフィードバックさせることができた。

(3) 読解力の向上を支える取組

- 校内に掲示している「よむよむチャレンジ」は、全校児童が自主的に取り組んでいる。放送で各学年の取組状況やチャレンジの呼びかけがあることで、より意欲を持続させて取り組み、楽しく学ぶ場となっている。
- 「まなびタイム」による視写の取組により、授業においてノートに板書を書き写す速さが確

実に高まっている。各学年で目標となる文字数を設定しているので、児童自身も目標を意識して取り組み、徐々に成果が表れることに喜びを感じて意欲的に取り組んでいる。

- 視写を続けることで、書く速度が高まり、他の活動への時間が確保されたり、書くことへの抵抗が少なくなったりして、児童の学びの質を高める手立てとなっている。
- 視写を続けることで徐々に集中力が身につく、3分間の視写タイムを集中して静かに取り組むようになってきた。
- 「主語・述語カード」は、授業中の読み取りの手立てだけではなく、朝のスピーチや普段の生活の中で話すときにも「いつ・どこで・だれが・どうした」などを意識して話したり、文を書いたりするようになった。

2 課題

研究仮説に「読解力（RS）の視点を取り入れた授業改善に取り組むことで、基礎的な読解力が高まり」とある。2年間の研究を経て、十分に読解力が高まったとは言えないが、徐々に高まりつつあるといえる。また、「子どもたちの学力を向上させることができるであろう。」と続くが、それについても、目に見えて大きく学力が向上したとは言い難いが、少しずつ読解力向上の手立てが児童の学力向上につながり、学力調査の結果等に反映され始めている。

読解力の向上は、1、2年で明らかな成果が出るようなものではなく、今後も継続して取り組むことで学力向上につながるものである。このような認識に立ち、読解力の一層の向上に向け以下に示す課題を踏まえながら、今後も継続して実践を重ねていく所存である。

（1）児童の学力、読解力の測定・分析について

- 「学びのアンケート」にある3項目は、教師も児童も意識して授業に臨むことができていた。（1成果（1）参照）しかし、文中の大切な言葉に線を引く活動などは、ただ闇雲に線を引き、それで満足しているといった児童もあり、まだ十分な活動とは言えないところである。今後も引き続きこれらの活動を取り入れるとともに、線を引いたところを活用して意見を述べる、考えの根拠となる文や図表などを使って説明する、といった活動に発展させていきたい。

（2）授業改善の取組

- 読解力を高めるための手立てを行う中で、児童の語彙の少なさが、更なる課題であることがわかった。今後は、読解力向上の手立てと並行して、語彙を増やすための工夫や手立て、調べた言葉を自分の言語表現の中で活用するための指導を学年の実態に応じて取り組むことが必要である。
- 読解力を高めるために丁寧に読ませると、どうしても教師による発問が増えてしまい、主体的な学習になっているのだろうか悩むところも多かった。現段階では教師⇒児童による手立てとなっていることが、今後は児童同士の対話の中で出てきたり、自らの考えの根拠としたりすることができるようにしたい。そのためには、今行っている手立てをこれからも継続する必要がある。
- 読解力の向上に向けた指導の手立ては、日々の授業実践における継続した取組が重要である

とともに、全職員で共通理解、共通実践することが重要であり、今後も全職員で継続して取り組んでいく必要がある。

- 算数において、問題文を読んで図に表し、それをもとに立式することがまだ十分にできていない。図をかくこと、問題文と図、式を照応させることを授業の中に取り入れる工夫をしていく必要がある。
- 社会科において、資料を読み取り、資料にかかれていることを根拠に考えを述べたり問題に答えたりすることに課題を抱える児童が多い。今後も継続して、資料を読み取ったり文と資料とを照応させたりする活動を取り入れる必要がある。
- 評価問題については、今後も「何のための評価問題なのか」をしっかりと意識し、単元や本時の中に効果的に位置づけていく必要がある。

(3) 読解力の向上を支える取組

- 視写で使う文章は、今年度は教科書を中心に、学年の実態に応じて準備して進めている。低学年はノートと同じマスのお手本を準備し、お手本と相違ないように書くことから始めている。学年が上がるにつれ、教科書のページから抜き書きしたり、新聞等他の資料を写して書いたりする活動へとステップアップさせているところである。
　　今後は、板書されたものを写したり全体に提示された資料等を使って視写に取り組ませたりするなど、工夫・改善しながら取組を継続させていきたい。
- R Sカードは、教師が授業を進める上で、読解力の視点を踏まえた指導を意識する際に有効であったが、まだ児童が活用するところまでは至っていない。今後は児童がR Sカードを見て読解のポイントに自ら気づき、読みの手立てとすることができるようになりたい。
- 「わからない言葉があったら国語辞典を引く。」ということが児童の中に定着しつつあるが、個人差が大きいのが現状である。国語のみならず学習活動全般において、どの子も自由に国語辞典を使うことができるよう、国語辞典の引き方を適宜指導していきたい。

○ 参考文献

- ・「小学校学習指導要領」（文部科学省 平成29年3月）
- ・「小学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省 平成29年7月）
- ・「小学校学習指導要領解説 社会編」（文部科学省 平成29年7月）
- ・「小学校学習指導要領解説 算数編」（文部科学省 平成29年7月）
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語
（文部科学省 国立教育政策研究所 令和2年3月）
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会
（文部科学省 国立教育政策研究所 令和2年3月）
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 算数
（文部科学省 国立教育政策研究所 令和2年3月）
- ・「長崎県読解力育成プラン」（長崎県教育委員会 令和2年3月）
- ・「A I vs. 教科書が読めない子どもたち」（新井紀子著 東洋経済新報社）
- ・「A I に負けない子どもを育てる」（新井紀子著 東洋経済新報社）
- ・学びのエリア『板橋の i カリキュラム開発重点校』研究授業資料
（板橋区立板橋第七小学校 令和元年11月）
- ・学びのエリア『板橋の i カリキュラム開発重点校』研究授業資料
（板橋区立板橋第六小学校 令和2年1月）

おわりに

これから子どもたちが歩んでいく社会は、グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化など、社会が加速的な変化をしていき、将来の予測が困難な時代と称されます。ですが、「予測が困難」とは、どういうことでしょうか。もともと将来のことなんてどうなるかはわからないはずなのに…。

これまでの時代は、努力の先には成長があり、1つの成功（正解）が予測できました。しかし、これからの時代は、今後少子高齢化が更に進行し、グローバル化や情報化が進展する社会となり、多様な考えが今までとは全く違うスピードで影響し合って、先のことがより予測が困難になっていくと考えます。努力の先の成長は約束されていますが、成功（正解）が1つではなく、たくさんの成功（正解）がある時代になります。そして、これからの社会は、成功（正解）が人それぞれで、多様性を認め合う時代であり、自分が考える成功（正解）が他者の考えるものとは違うこともあるという認識に立たなければなりません。このことが、目の前の子どもたちの将来に大きく影響することは間違いありません。つまり、このような時代が将来の予測が困難な時代なのかもしれません。これからの時代は、たくさんの成功（正解）を認め合い、主体的に感性を働かせて、他者と協働しながらより豊かなものを創りあげていく時代です。このような時代を生きる子どもたちを育ていく学校の役割は、今後ますます大きくなってきています。

こうした社会の要請を受け、本年度より完全実施されている学習指導要領では、子どもたちの現状と課題が5つ示されています。その課題の中で、「情報化の進展に伴う読解力の低下」が挙げられ、本校では、この「読解力」の向上に焦点をあて、昨年度より研究を進めてきました。「読解力」は、教師の話した内容や教科書、問題を正しく読み取るために必要な力で、学力に密接にかかわっています。その「読解力」を高めていくには、読書に力を入れればよいということでは決してなく、授業の中で、明確に「読解力」を高めていく視点を定めて授業を展開していく必要があります。しかし、「読解力」の向上だけを念頭に授業を展開するものではありません。あくまで、「読解力」は、学びを深めていくのに必要な力の一つです。学力向上には、「資質・能力の三つの柱」を念頭に、「生きる力」を身に付け、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進が必要です。

以上のような考えで、本日これまでの研究の一端を授業で公開させていただきました。今後は、「読解力」の視点を取り入れた授業改善をさらに深め、実践を積み重ねていく所存です。そして、これらの取組が大野小学校の子どもたちだけでなく、長崎県内外に広がり、将来の予測が困難な時代を生き抜きぬいていく子どもたちの育成に取り組む先生方の参考になれば幸いです。

しかし、まだまだ課題は多く残されています。本日参加された先生方の御意見や御感想をもとに、今後とも子どもたちの学びを支え、子どもたちがますます輝くような「授業の充実」を目指し、実践して参ります。

最後に、懇切丁寧にご指導頂きました長崎県教育委員会及び佐世保市教育委員会、その他御指導頂いた皆様に心よりお礼を申し上げます。

令和2年11月

副校長 永柄 孝知